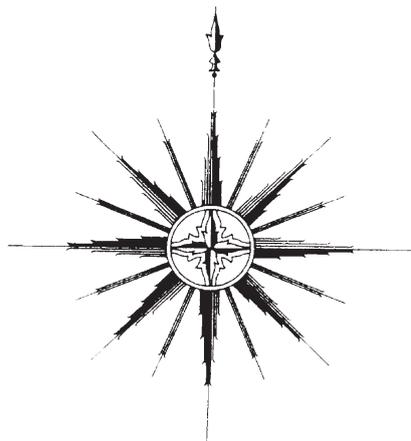


# 研究活動報告

(2017年4月～2018年3月)



## 凡 例

- (1) 現在の研究テーマ
- (2) 著書、論文、その他
- (3) 研究発表、講演
- (4) 学外集中講義など
- (5) 海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
- (6) 科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- (7) 共同研究、受託研究など
- (8) 学会・研究会・講演会などの開催

## 文化財論講座

### 須藤 弘 敏

#### (1)現在の研究テーマ

- 仏教絵画史、近世地方仏、文化政策

#### (2)著書、論文、その他

##### [論文]

- 須藤弘敏・浦木賢治・西川真理子「加須市徳性寺蔵紺紙金字法華経について」『埼玉県立歴史と民俗の博物館紀要』12号、pp.1~32、2018年3月27日

##### [その他]

- 監修「北日本の円空仏」『トランヴェール』2017年8月号、JR東日本、2017年8月1日

#### (3)研究発表、講演

##### [研究発表]

- 須藤弘敏「写される法華経 隠される伝承」、「富山・本法寺蔵「法華経曼荼羅図」の総合的研究」「中世絵画における古典の変成と再結晶化—話型と図様—」合同研究会、学習院大学、2018年3月3日

##### [講演]

- 須藤弘敏「夢中見仏と来迎図」奈良国立博物館夏季講座、奈良県文化会館、2017年8月24日

#### (6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「近世地方仏の調査研究」(研究代表者) 2015~2018年度
- 基盤研究 (B)「在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究」(研究分担者) 2016~2019年度

### 杉山 祐 子

#### (1)現在の研究テーマ

- 在来知、農民によるイノベーション過程としてのアフリカ農村の変化 (FIH:Folk Innovation History, or LIH:Local Innovation History)、開発プロジェクトの「その後」
- グローバル化の進展と「現金の社会化」、ジェンダー
- 北東北地域における小規模アグリビジネス

#### (2)著書、論文、その他

##### [論文]

- Sugiyama Yuko, 「Moral Economy and Social Stratification in Rural Africa: Are We Moving towards a New Platform?」, Kindai University, pp.58-66, 2018年3月
- Sugiyama Yuko, 「Grassroots innovation in “Natural Society”」, Kindai University, pp.20-31, 2018年3月
- 杉山祐子「地方農村にみる現金獲得活動と「小規模」の可能性—青森県津軽地域の農産物直売所の事例から—」弘前大学人文社会科学部、pp.113-132、2018年3月

##### [その他]

- 杉山祐子「食性の変化と調理加工の共同：食が社会にひらかれるとき」『東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所共同研究人類社会の進化史的基盤4』2017年12月
- 杉山祐子「ドキュメンタリー映画「女を修理する男」上映会」『平成29年度弘前大学特定プロジェクト教育研究センター地域未来創生センタージャーナル』pp.127-128, 2018年2月
- 杉山祐子・日比野愛子「「地域の持続性に向けた共創手法の探求」プロジェクト」『平成29年度弘前大学特定プロジェクト研究センター地域未来創生センタージャーナル』2018年2月、pp.41-45

#### (3)研究発表、講演

##### [研究発表]

- 杉山祐子「植林プロジェクトの「その後」と在来化する技術—タンザニア緑の推進協力プロジェクトの事例を中心に」日本アフリカ学会第54回学術大会、2017年5月21日、信州大学
- 杉山祐子「食性の変化と調理加工の共同—食が社会にひらかれるとき」『人類社会の進化史的基盤』共同研究会、2017年7月21日、東京外国語大学

(7)共同研究、受託研究など

- 共同研究：東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所共同研究「人類社会の進化史的基盤研究（3）」
- 共同研究：東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所共同研究「アフリカ農業・農村社会史の再構築：在来農業革命の視点から」
- 受託研究：農山漁村「地域経営」(地域社会研究科受託研究)

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 地域未来創生プロジェクト「地域の持続性に向けた共創手法の探求」

## 宮坂 朋

(1)現在の研究テーマ

- ローマ美術における私的領域から公的領域への格上げの問題

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 宮坂朋「古代末期におけるエジプト・トレードマーク図像の可能性—ヴィア・ラティーナ・カタコンベ壁画の図像生成」『地中海学会愛好会』第401号、pp.7、単著、2017年7月
- 宮坂朋「パレストリーナ、あるいは歴史の語らないことについて」『弘前イタリア文化愛好会』第18号、pp.1-9、単著、2018年2月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 宮坂朋「古代末期におけるエジプト・トレードマーク図像の可能性—ヴィア・ラティーナ・カタコンベ壁画の図像生成—」第41回地中海学会大会（設立40周年記念大会）、単独、東京大学、2017年6月10日～11日

## 山田 巖子

(1)現在の研究テーマ

- 潜在的な宗教者、民俗信仰の再文脈化、世間の認識と世間話

(2)著書、論文、その他

[報告書]

- 山田巖子監修・民俗学実習履修学生編『田子の民俗—青森県三戸郡田子町—』2018年3月 弘前大学民俗学研究室

[その他]

- 渡辺麻里子・山田巖子「地域の民俗や文献資料など文化資源の調査研究と公開および地域ネットワークの構築」『地域未来創生センタージャーナル』2018年2月 pp.45-47
- 山田巖子「民俗資料の「発見」と新たな「活用」の可能性を探る」『地域未来創生センタージャーナル』2018年2月 pp.113-117

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 山田巖子「想起の技法—経験と発話の民俗学へ—」佐藤健二・高木史人先生還暦記念日本民俗学講習会 2017年7月29日 於：京都大学楽友会館
- 山田巖子「渋沢敬三影響下の地方民間博物館—小川原湖民俗博物館の学史的意義—」日本民俗学会第69回大会 2017年10月14日 於：仏教大学
- 山田巖子「小川原湖民俗博物館旧蔵資料における渋沢敬三の音声・映像資料について」青森県民俗の会 2018年3月 於：青森市森林博物館

[講演]

- 山田巖子「東北におけるオシラ神信仰と潜在的な宗教者」弘前大学人文社会科学部国際公開講座 2017年11月3日 於：弘前大学創立50周年記念会館
- 山田巖子・小山隆秀・印部香・小石川透「文化“財”の活用を通じた地域デザインを考える」弘前大学地域未来創生センターフォーラム 2018年2月23日 於：弘前市民文化交流館ホール

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「地方における「民俗」思想の浸透と具現化—渋沢敬三影響下の民間博物館をめぐって—」（研究代表者）

2017～2019年度

- 基盤研究 (C)「人形芝居における儀礼の復活と門付の伝統に関する研究—淡路人形芝居を中心として」(研究分担者) 2015～2017年度

(7)共同研究、受託研究など

- 国立歴史民俗博物館共同研究「地域における歴史文化研究拠点の構築」

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 東北6県合同研究フォーラム「民俗資料の『発見』と新たな『活用』の可能性を探る」(地域未来創生センター×青森県民俗の会共催) 2017年11月25日 於：弘前大学人文社会科学部  
同時開催 企画展示「小川原湖民俗博物館旧蔵資料の保存と探求」 於：弘前大学人文社会科学部演習室C、D、E

[それ以外のもの]

- 企画展示「被災地と向き合う—文化財レスキューの取り組み」(国立歴史民俗博物館×弘前大学資料館共催) 企画・コーディネート 2017年10月28日～12月16日 於：弘前大学資料館

## 関根達人

(1)現在の研究テーマ

- 縄文 中近世考古学 北方史 石造物

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 関根達人『青森県史通史編1(原始・古代・中世)』、共著、2018年3月、青森県

[論文]

- 関根達人「近世石工の基礎的研究1—高野山奥之院と住吉大社—」『人文社会科学論叢』第3号、pp.1-32、単著、2017年8月、人文社会科学部
- 関根達人「三重の壕をもつ北奥の古代集落—青森県外ヶ浜町山本遺跡—」『同成社古代選書(古代国家と北方世界)』第28巻、pp.210-224、単著、2017年10月、同成社
- 関根達人「津軽・下北の近世海運関連石造物」『弘前大学國史研究会』第144号、pp.79-91、単著、2018年3月、弘前大学國史研究会

[報告書]

- 関根達人『大安寺水沢伊達(留守)家墓所調査報告書』、共著、2018年3月、奥州市教育委員会

[その他]

- 関根達人「沖縄県北谷町、平安山原B遺跡より出土した亀ヶ岡式土器の胎土分析—この土器はどこで作られたか?」『青森地学』第63号、p.12-13、2018年2月、青森県地学教育研究会
- 関根達人「陸別町トラリ1チャシ周辺出土の武器・武具」『北海道考古学』第54号、pp.149-158、2018年3月、北海道考古学会

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 関根達人・上條信彦・岩井浩人・駒田透・江戸邦之「三重の壕が巡る蝦夷の集落—青森県外ヶ浜町山本遺跡測量調査報告—」日本考古学協会、共同、日本考古学協会第83回総会研究発表、大正大学西巣鴨キャンパス、2017年5月28日
- 片岡太郎・村上千敏・上條信彦・関根達人「縄文時代晩期の漆器製作技術」日本考古学協会、共同、日本考古学協会第83回総会研究発表、大正大学西巣鴨キャンパス、2017年5月28日
- 関根達人「胎土中の火山ガラスの化学組成分析による土器研究の新地平—北谷町平安山原B遺跡出土の亀ヶ岡系土器からみえてきたこと—」沖縄県考古学会、単独、沖縄考古学会例会、沖縄県埋蔵文化財センター、2018年3月23日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (A)「石造物研究に基づく新たな中近世史の構築」(研究代表者) 2014～2018年度
- 挑戦的研究(萌芽)「火山ガラス分析による新たな土器研究法の開拓」(研究代表者) 2017～2019年度
- 基盤研究 (B)「近世国家境界域「四つの口」における物資流通の比較考古学的研究」(研究分担者) 2016～2020年度
- 三菱財団研究助成「近世国家北方領域境界域における物資流通に関する考古学的研究」2017年度
- たばこ総合研究センター研究助成「酒とタバコからみた蝦夷地の内国化に関する研究」2017年度

(7)共同研究、受託研究など

- 「宮城県栗原市史跡山王圀遺跡出土漆器の研究」(研究代表者)、2015～2019年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- 第3回北海道考古学会賞、北海道考古学会、2017年5月13日

## 足 達 薫

(1)現在の研究テーマ

- イタリアのルネサンス美術における記憶術と魔術の同調作用

(2)著書、論文、その他

[著書]

- リナ・ボルツォーニ・足達薫・伊藤博明・金山弘昌『クリスタルの心：ルネサンスにおける愛の談論、詩、そして肖像画』ありな書房、2017年11月25日。

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ジェノヴァ、パルマ、ローマでの資料調査、作品調査（2017年9月および2018年2月）

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「マニエリスム形成期における記憶術の影響についての研究」2015～2018年度

## 植 月 学

(1)現在の研究テーマ

- 人と動物の関係史、食文化史

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 植月 学「余山貝塚の漁労活動—漁具生産と魚類資源をめぐる集団間関係」阿部 芳郎編『霞ヶ浦の貝塚と社会』pp.159-178、共著、2018年2月10日、雄山閣

[その他]

- 植月 学「ケカチ遺跡・后畑西遺跡から出土したウマ遺体」『后畑西・ケカチ遺跡—市道下塩後22号線建設に伴う発掘調査報告書—』、単著、2017年12月、甲州市・甲州市教育委員会・昭和測量株式会社
- 植月 学「中峠遺跡第7時調査出土の動物遺体」『下総考古学』、単著、2017年5月、下総考古学研究会

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 植月 学・覚張隆史「東日本における馬給餌の歴史—同位体化学分析による検討—」日本文化財科学会、共同、東北芸術工科大学、2017年6月10日
- 覚張隆史・植月学・青柳泰介・丸山真史・山崎健「化学分析に基づく遺跡出土馬の食性復元」日本文化財科学会、共同、東北芸術工科大学、2017年6月11日
- 植月 学「青森県内出土馬の古病理学的研究」日本動物考古学会第5回研究大会、単独、石川県立博物館、2017年6月17日
- 植月 学「牛馬の考古学」青森県考古学会、単独、縄文の学び舎・小牧野館、2017年6月24日
- 植月 学「Horses in medieval Japan: paleopathological evidence of various usage」Japan-Korea Paleopathology Forum (Second Annual Conference of the Japanese Society of Paleopathology)、単独、Tokyo University、2017年10月21日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「日本の畜産文化成立過程の動物考古学的研究」(研究代表者) 2015～2017年度
- 挑戦的萌芽研究「日本古代の乳製品に関する考古化学的証拠の探求」(研究分担者) 2017～2018年度

## 上 條 信 彦

(1)現在の研究テーマ

- 東アジア先史時代の食資源・食文化・食品加工技術の研究
- アスファルト利用の考古学的研究
- 縄文時代漆器製作技術の研究

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 上條信彦編『八郎潟沿岸における縄文時代晩期末の研究 下台遺跡発掘調査報告書』、編著、2017年5月、弘前大学人文社

会科学部北日本考古学研究センター

- 上條信彦編『八郎潟沿岸の亀ヶ岡文化 中山遺跡・高石野遺跡・大沢I遺跡出土資料の研究』、編著、2018年2月、弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター
- 小泉翔太・田中克典・上條信彦編『日本の出土米Ⅲ 佐藤敏也コレクションの研究』、共編、2018年2月、弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター

[論文]

- 上條信彦「民具から考古資料と見直す」『理論考古学の実践』、pp.259-278、単著、2017年6月

[その他]

- 上條信彦「学界動向「生業論」」『縄文時代文化研究会』第28号、pp.162-166、単著、2017年5月
- 長田友也、上條信彦他「2016年縄文時代関係文献目録」『縄文時代文化研究会』第28号、pp.180-250、共著、2017年5月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 関根達人、上條信彦、岩井浩人、駒田透他「三重の塚が巡る蝦夷の集落—青森県外ヶ浜町山本遺跡測量調査報告—」日本考古学協会第83回総会、共同、大正大学、2017年5月
- 片岡太郎、上條信彦、村上千敏、関根達人「縄文時代晩期の漆器製作技術の様相—X線CTスキャナーによる内部構造解析の応用—」日本考古学協会第83回総会、共同、大正大学、2017年5月
- 片岡太郎、上條信彦、佐藤信輔、佐々木理「X線CT観察による縄文時代晩期の藍胎漆器の製作技術研究—東北地方を中心として—」第34回日本文化財科学会大会、共同、東北芸術工科大学、2017年6月

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (B)「冷温帯地域における稲作の歴史的展開」(研究代表者) 2016年~2018年度
- 基盤研究 (B)「東北アジア農耕伝播過程の植物考古学分析による実証的研究」(研究分担者) 2015年~2018年度
- 新学術領域研究「イネの栽培化と植物質食料資源の開発」(研究分担者) 2015年~2019年度

(7)共同研究、受託研究など

- 大阪府立弥生文化博物館「佐藤コレクション出土米の分析」
- 島根県埋蔵文化財センター「青谷上寺地遺跡からみた弥生時代のイネ品種分析」
- 兵庫県立考古博物館「玉津田中遺跡からみたイネ品種の歴史的展開」
- 弘前市教育委員会「砂沢遺跡の発掘調査」
- 五所川原市教育委員会「東北日本海沿岸の亀ヶ岡文化の研究」

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- 日本考古学協会 奨励賞、日本考古学協会、2017年5月
- 日本文化財科学会 論文賞、日本文化財科学会、2017年6月

## 片岡太郎

(1)現在の研究テーマ

- 非破壊透視解析の開発とそれを用いた縄文漆工技術の体系化
- 水浸出土木製品の保存処理方法の開発
- 被災有機質文化財の簡便な応急処置方法の開発

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 片岡太郎、村上千敏、上條信彦、関根達人「縄文時代晩期の漆器製作技術の様相—X線CTスキャナーによる内部構造解析の応用—」日本考古学協会第83回総会、共同、大正大学、2017年5月27日~28日
- 片岡太郎、鹿納晴尚、佐々木理、上條信彦「X線CT観察による縄文時代晩期の藍胎漆器の製作技術研究—東北地方を中心として—」日本文化財科学会第34回大会、共同、東北芸術工科大学、2017年6月9日~11日
- Taro KATAOKA, Nobuhiko KAMIJO, Harumasa KANO, Osamu SASAKI「X-ray Computed Tomography for Observing Lacquer Ware Excavated from the Final Jomon Period Archaeological Sites in Northern Tohoku Area, Japan」The 46th Conference of The Korean Society of Conservation Science for Cultural Heritage、共同、National Maritime Museum、2017年9月22日~23日
- Ayaka KIMURA, Taro KATAOKA「On the possibility of a new method by use of insects' light-reaction for the

conservation of cultural property: Attagenus japonicus reactions to light」The 46th Conference of The Korean Society of Conservation Science for Cultural Heritage、共同、National Maritime Museum、2017年9月22日～23日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 若手研究 (B)「X線CTを使った縄文時代の漆器製作技術の体系化」(研究代表者) 2016年～2019年度
- 基盤研究 (A)「被災博物館等の汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究」(研究分担者) 2014年～2018年度

(7)共同研究、受託研究など

- 岩手県奥州市「奥州市大安寺留守家西墓所出土遺物の保存科学的研究」(研究分担者)
- 岩手県大槌町「岩手県大槌町町方遺跡出土遺物の保存科学的研究」(研究代表者)

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- 日本文化財科学会第11回論文賞、日本文化財科学会、2017年6月11日
- 優秀ポスター賞(The 46th Conference of The Korean Society of Conservation Science for Cultural Heritage)、The Korean Society of Conservation Science for Cultural Heritage、2017年9月23日

## 思想文芸講座

### 李 良

(1)現在の研究テーマ

- 近世東アジア知識論の研究、漢訳西学書の研究、イエズス会の教育思想研究

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 李 良『キリシタンが拓いた日本語文学』、共著、2017年9月4日、明石書店

[論文]

- 李 良「イエズス会の教育とヴァリニャーノの思想」郭南燕編『キリシタンが拓いた日本語文学』、明石書店、pp81-94、単著、2017年9月

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

1、人間文化研究機構・国文学研究資料館研究プロジェクト「日本と西洋との相互認識に関する総合書物学的研究：キリシタン文学の発展と継承」(Mutual Understanding between Japan and the West through Comprehensive Book-based Research: The Development and Legacy of Christian Literature in Japan) (代表者郭南燕)、研究分担者、2014年～2020年度

(7)共同研究、受託研究など

- 「日本と西洋との相互認識に関する総合書物学的研究：キリシタン文学の発展と継承」(Mutual Understanding between Japan and the West through Comprehensive Book-based Research: The Development and Legacy of Christian Literature in Japan) (代表者郭南燕、国際日本文化研究センター准教授)、研究分担者、2014～2017年度
- 「比較のなかの東アジア王権論と秩序構想—王朝・国会、または宗教・儀礼—」(代表者伊東貴之、国際日本文化研究センター教授)、研究分担者、2016～2019年度

### 今 井 正 浩

(1)現在の研究テーマ

- 西洋古典学
- 西洋古代哲学・思想史
- ヨーロッパ古典文化論
- 人体の中樞器官をめぐる論争史をとおしてみた西洋古代の人間観の展開の解明
- 精神疾患の病理をとおしてみた西洋古典古代の人間観の特質の解明

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「精神疾患の病理を通して見た西洋古典古代の人間観の特質を解明するための実証的研究」(研究代表者) 2016～2018年度

## 泉谷安規

### (1)現在の研究テーマ

- ジョルジュ・バタイユ、シュルレアリスム

## 横地徳廣

### (2)著書、論文、その他

#### [論文]

- 横地徳廣「映画『ブレードランナー』の生命倫理学—虚実のあいだで詭弁を見定める—」『株式会社ミュウ』、単著、2018年3月

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 横地徳廣「地球は宇宙船なのか?—サイバネティクス批判」第39回日本比較文化学会全国大会、2017年度日本比較文化学会国際学術大会、2017年5月20日、静岡県立大学
- 横地徳廣「ハイデガー『ソピステス』講義における「実践的推論」と「知慮」の解釈について——〈見ること〉で語られた現象学的倫理学——」日本現象学会 第39回研究大会、日本現象学会、2017年11月12日

## 尾崎名津子

### (1)現在の研究テーマ

- 日本近現代文学、出版メディア、検閲研究

### (2)著書、論文、その他

#### [著書]

- 尾崎名津子「待たれる「乞食学生」—『若草』読者共同体と太宰治」、小平麻衣子編『芸芸雑誌『若草』—私たちは芸芸を愛好している』、pp.284-307、共著、2018年1月、翰林書房

#### [論文]

- 尾崎名津子「「一人称にてのみ物書かばや」—『青鞥』と検閲—」、『弘前大学国語国文学』第39号、pp.1-19、単著、2018年3月

#### [その他、解題]

- 尾崎名津子「【18】西洋事情」「【19】博物新編補遺」「【20】博物新編補遺」「【21】天変地異」、『東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録』第4集、pp.86-101、単著、2018年3月

#### [その他、予稿]

- 尾崎名津子「坂口安吾の〈恋〉と〈主体〉—占領期日本におけるサルトルの役割」、『第5回東アジアと同時代日本語文学フォーラム2017ソウル大会+次世代フォーラム予稿集』、pp.366-379、単著、2017年10月
- 尾崎名津子「谷崎潤一郎の作品と検閲」、『弘前大学人文社会科学部国際公開講座2017「日本を知り、世界を知る」今こそ人文学！人間の世界を見つめるまなざし—国際公開講座資料集』、pp.1-9、単著、2017年11月

#### [その他、書評]

- 尾崎名津子「水沢不二夫著『検閲と発禁 近代日本の言論統制』」、『日本文学』第66号、pp.74-75、単著、2017年9月
- 尾崎名津子「清張文学の「大きな功績」南富鎮著『松本清張の葉脈』」、『図書新聞』第3331号、p.5、単著、2017年12月

#### [その他、報告書]

- 十重田裕一、尾崎名津子、塩野加織「岩波茂雄と津田左右吉」、新川登亀男編「国際シンポジウム『人文学の再建とテキストの読み方—津田左右吉をめぐる—』会議録」、『WASEDA RILAS JOURNAL』第5号、pp.329-387、共著、2017年10月

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 尾崎名津子「二人の五代友厚—直木三十五の「大阪回帰」をめぐる—」日本近代文学会関西支部春季大会、単独、2017年6月3日
- 尾崎名津子・塩野加織・十重田裕一「占領期メディア規制と出版文化 プランゲ文庫と岩波書店での調査を中心に」第13回国際日本文化研究センター「戦後日本文化再考」、共同、2017年6月18日
- 尾崎名津子「坂口安吾の〈恋〉と〈主体〉—占領期日本におけるサルトルの役割—」第5回東アジアと同時代日本語文学フォーラム 2017ソウル大会、単独、2017年10月28日

- 尾崎名津子「太宰治と不可知の〈津軽〉」慶應義塾大学国文学研究会、単独、2017年12月23日
- 尾崎名津子「岩波文庫への検閲について」早稲田大学スーパーグローバル大学創成支援事業「国際日本学拠点」国際検閲ワークショップ、単独、2018年1月26日

[講演]

- 尾崎名津子「谷崎潤一郎の作品と検閲」弘前大学人文社会科学部国際公開講座2017「日本を知り、世界を知る」、単独、2017年11月3日
  - 尾崎名津子「『一人称にてのみ物書かばや』—『青鞥』と検閲」弘前大学国語国文学会、単独、2017年11月26日
  - 尾崎名津子「東奥義塾高校図書館蔵本における慶應義塾の出版物」2017年度旧弘前藩藩校稽古館史料調査報告会、単独、2017年12月17日
  - 尾崎名津子「東奥日報社と青森の文化」第7回地域未来創生塾、単独、中央公民館、2018年1月10日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 挑戦的萌芽研究「岩波書店における検閲と文学の総合的研究」(研究分担者) 2016~2018年度

## コミュニケーション講座

### 山本秀樹

(1)現在の研究テーマ

- 地理情報システム (GIS) による世界諸言語の言語類型地理論的研究、世界諸言語の言語構造地図の作製および分析、言語類型論と言語普遍性研究、人類と言語の系統に関する研究

(4)学外集中講義など

- 山口大学人文学部集中講義「言語類型論特殊講義」山口大学、2017年8月7日~10日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「地理情報システムによる世界諸言語の比較表現の言語類型地理論的研究」(研究代表者) 2016~2018年度

### 木村宣美

(1)現在の研究テーマ

- 英語学 (統語論・意味論):  
右方移動現象と併合/線形化のメカニズム; 述語 (動詞句) 削除に対する2種類のbeに基づく分析; 文体的倒置/there構文/as挿入節/比較節の節構造

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 木村宣美「名詞の修飾辞を伴う後置文: 移動と削除に基づく分析」『日本言語学会第154回大会予稿集』pp. 318-323、単著、2017年6月
- 木村宣美「『後置された』連体修飾成分の統語特性に基づく後置文の分類」『日本語文法学会第18回大会発表予稿集』pp. 246-253、単著、2017年12月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 木村宣美「名詞の修飾辞を伴う後置文: 移動と削除に基づく分析」日本言語学会第154回大会、単独、首都大学東京 (南大沢キャンパス)、2017年6月24日
- 木村宣美「『後置された』連体修飾成分の統語特性に基づく後置文の分類」日本語文法学会第18回大会、単独、筑波大学 (筑波キャンパス)、2017年12月3日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- The 19th Seoul International Conference on Generative Grammar (SICOGG 19), Seoul National University, Seoul, Korea, August 9-11, 2017 (2017年8月8日-11日)
- The 44th Incontro di Grammatica Generativa (IGG 44), Università degli Studi Roma Tre, Rome, Italy, March 1-3, 2018 (2018年2月28日-3月5日)

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「複数の助動詞が生じる右方移動構文の内部構造と派生メカニズムの解明」(研究代表者) 2017年度~2019年度

## 渡 辺 麻里子

### (1)現在の研究テーマ

- 中世文学・説話文学・仏教文学、書誌学、天台談義書、大藏経（明版・鉄眼版）、津軽の宗教と文化、藩校資料・大名文庫

### (2)著書、論文、その他

#### [著書]

- 渡辺麻里子・鈴木彰・小峯和明他『資料学の現在』、共著、2017年11月、pp.314-328、笠間書院
- 渡辺麻里子・植木久行・荷見守義・武井紀子・川瀬卓他『東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録第四集』、共著、2018年3月、pp.102-112, 136-147, 152-166、弘前大学人文社会科学部・弘前藩藩校資料調査プロジェクトチーム

#### [論文]

- 渡辺麻里子「弘前市立弘前図書館蔵「奥文庫」関係本について」、単著、東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録、査読無、pp.136-147、2018年3月31日
- 渡辺麻里子「隣松寺蔵『久祥院殿写経』（仮名書き法華経）をめぐる一考察—付・〔翻刻〕隣松寺蔵『久祥院殿写経』第一冊（序品第一・方便品第二）」、単著、弘前大学人文社会科学部『人文社会科学論叢』第3号、pp.1-35、2017年8月

#### [その他]

- 渡辺麻里子「日本古典文学のファンを増やすために—文化コードの断絶のなかで—」、単著、『リポート笠間』62、笠間書院、pp.12-15、2017年5月
- 渡辺麻里子〔解題〕「兵要録」「兵要録口伝之巻」「兵要録口義」、弘前藩藩校資料調査プロジェクトチーム『東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録』第四集、弘前大学人文社会科学部、pp.102-106, 107-109, 110-112、2018年3月

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 渡辺麻里子「経典注釈における筆写文字について—中世日本の天台宗を中心に—」、2017国際ワークショップ「写本一切経と刊本大藏経」、2017年7月29日、30日、国際仏教学大学院大学
- 渡辺麻里子「天台の論義書および講義書について—『法華経』『三大部』の論議・講義を中心に」、法宝義林第2回国際シンポジウム、2017年10月10日~12日、コレージュ・ド・フランス
- 渡辺麻里子「記家と記家文字」、第59回天台学報宗教学大会、2017年10月27日、28日、大正大学
- 渡辺麻里子「天台の講義所を身延の学僧」第70回日蓮宗教学研究発表大会、2017年11月10日、11日、身延山大学
- 渡辺麻里子「弘前市立弘前図書館蔵「奥文庫」関係本について」2017年度旧弘前藩校稽古館資料調査報告会、2017年12月17日、弘前大学
- 渡辺麻里子「香月園所蔵『菊押葉添句標本帖』と文学世界」弘前大学グロウカルファンド「八戸菊プロジェクト」成果発表会、2018年2月4日、八戸商工会議所
- 渡辺麻里子「弘前における資料学—「日本文学の展望を拓く」のその先へ—」研究集会「日本文学の展望を拓く」、2018年3月16日、立教大学
- 渡辺麻里子「地域の民俗や文献史資料など文化資源の調査研究と公開および地域ネットワークの構築」地域未来教育研究プロジェクト、2017年6月~2018年3月、弘前大学
- 渡辺麻里子「学生の主体的研究および教員による研究指導を活性化・可視化する循環型教育カリキュラムの形成—地域の文化資源の再認識および課題探求過程を通じて—」地域未来創生プロジェクト、2017年6月~2018年3月、弘前大学

#### [講演]

- 渡辺麻里子「お殿様は何を読み何を学んでいたか—弘前藩主の所持本からわかること—」、とうしん大学 第1回講座、2017年5月15日、黒石市産業会館
- 渡辺麻里子「お殿様は何を読み何を学んでいたか—弘前藩主の所持本からわかること—」、とうしん大学 第1回講座、2017年5月22日、弘前文化センター
- 渡辺麻里子「昔話や物語の世界—「くずし字」の不思議ワールド体験—」〔文京小学校・文京学区ふれあい講座・特別公開授業〕、2017年6月26日、6年1組2校時、6年2組3校時、弘前市立文京小学校
- 渡辺麻里子「昔話や物語の世界—「くずし字」の不思議ワールド体験—」〔大成小学校・大成学区まなびい講座・特別公開授業〕（6年1組・2組合同）、2017年7月3日、弘前市立大成小学校
- 渡辺麻里子「昔話や物語の世界—「くずし字」の不思議ワールド体験—」〔三大小学校・三大学区生涯学習講座・特別公開授業〕、2017年7月10日、弘前市立三大小学校

- 渡辺麻里子「古典籍取扱い方講座」、2017年7月1日、弘前市立弘前図書館
  - 渡辺麻里子「古典籍取扱い方講座」、2017年7月22日、弘前市立弘前図書館
  - 渡辺麻里子「〔開校記念講演〕深浦再発見！—円覚寺にみる宗教・歴史・文化の魅力—」、弘前大学深浦エコサテライトキャンパス 平成29年度第1回公開講座、2017年7月14日、フィットネスプラザ・ゆとり多目的ホール（深浦）
  - 渡辺麻里子「和本の取り扱い方—地域の文化財を守る活動に参加してみよう！—」〔深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト〕、2017年10月29日、深浦町役場 町民文化ホール
  - 渡辺麻里子「昔話や物語の世界—「くずし字」の不思議ワールド体験—」（弘前大学との連携事業・特別公開授業）、2017年12月1日、弘前市立第三中学校
  - 渡辺麻里子「物語の変化と日本文化—「浦島太郎」を通して—」海外学者招聘講演会、2017年12月4日、韓国外国語大学
  - 渡辺麻里子「〔市民講座〕古典籍の取り扱い方——体験見学会——」、弘前大学深浦エコサテライトキャンパス・深浦古典籍保存調査プロジェクト、2018年2月17日、深浦町役場町民ホール
  - 渡辺麻里子「〔木造高校深浦校舎全校生徒対象〕弘前大学和古書特別講座」、弘前大学エコサテライトキャンパス・深浦円覚寺古典籍調査プロジェクト、2018年2月20日、深浦町役場町民ホール
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 挑戦的萌芽研究「中世仏教資料における記家文字表記体系の解明」（研究代表者）2015～2017年度
  - 基盤研究（A）「宮内庁書陵部所蔵道蔵を中心とする明版道蔵の調査と研究」（研究分担者）2014～2018年度
- (7)共同研究、受託研究など
- 国際日本文化研究センター「投企する古典性—視覚／大衆／現代」（研究分担者）2016～2019年度
  - 深浦町役場「深浦における歴史文化資源調査とその活用による地域振興」（研究代表者）2017年度
  - 人間文化機構・国文学研究資料館「文献刊行資源学としての「津軽デジタル風土記」の開発と研究」（研究分担者）2017～2019年度
  - 株式会社香月園「明治期の『菊押葉添句標本帖』の解読を通じた人材育成と地域振興」（研究代表者）2016～2017年度
- (8)学会・研究会・講演会などの開催
- 〔弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの〕
- 〔弘前大学人文学部 国際公開講座2016〕「日本を知り、世界を知る」「海をこえて世界とつながる人文学」2016年11月3日（火・文化の日）、（於）弘前大学人文社会科学部棟4階多目的ホール
  - 「2016年度東奥義塾高校所蔵 旧弘前藩藩校稽古館資料調査報告会」2016年12月18日（日）、（於）弘前大学人文社会科学部4階多目的ホール
  - 「〔2016年度・卒研プロジェクト〕卒研を書くために！—卒業研究発表会&卒研指導勉強会—」2017年2月8日（水）、（於）弘前大学総合教育棟306

## 奈 蔵 正 之

### (2)著書、論文、その他

#### 〔論文〕

- 奈蔵 正之「『幸福な死』への挑戦—カミュ最初の小説執筆の経緯と意義—（上）」『人文社会科学論叢』第4号、弘前大学人文社会科学部、pp.15-73、単著、2018年2月

## 熊 野 真 規 子

### (1)現在の研究テーマ

- 外国語教育（フランス語教育、複言語・複文化教育、サービスマーケティング）

### (3)研究発表、講演

#### 〔研究発表〕

- 熊野真規子「学生が主体的であるために—『弘前×フランス』プロジェクト参画学生の特殊事例から考える—」、Rencontres Pédagogiques du Kansai 2018（第32回関西フランス語教育研究会）、単独、上田安子服飾専門学校、2018年3月26日

### (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 挑戦的萌芽「社会実験のアプローチによる地方都市の複言語・複文化教育モデル構築と地域活性化検証」（研究代表者）2015～2017年度

## 小野寺 進

### (1)現在の研究テーマ

- 英文学、イギリス文化論、物語理論、英語多読、英語教育

### (2)著書、論文、その他

#### [論文]

- 小野寺進「ジェーン・オースティンの異質物語世界における〈わたし〉の存在と不在」『東北ロマン主義研究』第4号、pp.1-15、単著、2017年11月25日

#### [その他]

- 小野寺進「加藤孝先生の学統と東北学院」『東北学院大学英語英文学研究所』第39号、pp.37-45、単著、2018年3月15日

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- Susumu Onodera「How to Practice Extensive Reading in the College Classroom」、The Fourth World Congress on Extensive Reading、単独、Toyo Gakuen University、2017年8月4日

### (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 挑戦的萌芽研究「授業における英語多読プログラム開発とその評価に関する研究」(研究代表者) 2016~2018年度

## 南 修 平

### (1)現在の研究テーマ

- アメリカ現代史、ニューヨークの歴史と文化、労働民衆史、アメリカ愛国主義研究

### (2)著書、論文、その他

#### [著書]

- 南修平「揺れる白人ブルーカラー労働者—「疎外」と「包摂」の間で」日比野啓・下河辺美知子編著『アメリカン・レイバー—合衆国における労働の文化表象』、pp.147-171、共著、2017年10月、彩流社

- 南修平「マイノリティとスポーツ」アメリカ学会編『アメリカ文化事典』、pp.600-601、共著、2018年1月、丸善出版

#### [その他]

- 南修平「官版・兵学提要 刊三冊(700435)」弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター藩校資料調査プロジェクトチーム『東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典書籍調査集録 第四集』、pp.113-120、2018年3月

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 南修平「[「反エスタブリッシュメント」が立ち現れる時—ジョン・V・リンジーとニューヨーク労働者の対立」アメリカ学会第51回年次大会シンポジウム「反エスタブリッシュメントの系譜」、単独、早稲田大学早稲田キャンパス、2017年6月4日

- 南修平「つくられる余暇、享受される余暇—第2次世界大戦期とその後の造船労働者と電気工の「絆」を考える」日本アメリカ史学会第14回年次大会シンポジウムC、単独、愛知県立大学長久手キャンパス、2017年9月23日

- Shuhei Minami, “Naked but Elusive: Rethinking Working Class Anti-establishment Feelings,” Lecture by the Visiting Scholar at the University of Tennessee at Martin, single, Gooch Hall 117, University of Tennessee at Martin, Oct.26, 2017.

#### [講演]

- 南修平「ベースボールから読み解くニューヨークの移民文化」単独、弘前大学人文社会科学部国際公開講座2017「日本を知り、世界を知る」弘前大学創立50周年記念館岩木ホール、2017年11月3日

#### [調査報告]

- 南修平「マハンから見える近代日本の軍事論」2017年度旧弘前藩藩校稽古館資料調査報告会、弘前大学人文社会科学部多目的ホール、2017年12月17日

### (4)学外集中講義など

- 南修平「学ぶ英語と楽しむ英語—大学での実践例から」単独、平成29年度教員免許状更新講習(英語)、弘前大学総合教育棟305、2017年8月4日

- 南修平「トランプ誕生から見えるアメリカ社会—「多文化共生」は理想か」単独、平成29年度オープンキャンパス模擬講義、弘前大学総合教育棟305、2017年8月8日

### (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ニューヨーク(コロンビア大学、ニューヨーク大学など)での史料調査、2017年9月4日~16日

- 平成29年度テネシー大学マーチン校（UTM）教員交流プログラム、2017年10月24日～11月2日
  - ニューヨーク（コロンビア大学、ニューヨーク公立図書館）での史料調査、2018年3月26日～31日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 基盤研究（C）「第2次世界大戦後のニューヨーク港湾地区の衰退と都市秩序に関する史的考察」（研究代表者）2017年度～2020年度

## 堀 智 弘

### (1)現在の研究テーマ

- 十九世紀アメリカ社会の世俗化と物語形式の発展についての研究
- 奴隷制文学

### (3)研究発表、講演ほか

#### [講演コメント]

- Tomohiro Hori, “Comments on Dr. Paradee Tungtang’s Lecture ‘Shakespeare in Thailand: Translating, Staging and Exploiting the Bard in the Thai Context,’” International Forum 2017 at the Faculty of Humanities and Social Sciences, Hirosaki University, May 31

### (4)学外集中講義など

- 青森県立弘前高等学校での出張講義、2017年9月8日
- 秋田県立能代高等学校での出張講義、2017年9月20日
- 大学入試入学説明会・進路相談会、仙台ガーデンパレス、2017年10月17日
- 進路なんでも相談会、ホテルサンルートシティ五所川原、2018年2月6日

## JANSON MICHEL

### (1)現在の研究テーマ

- フランス語・フランス語教育学

### (4)学外集中講義など

平成29年2月12日～16日

集中講義 フランス語会話&実践 秋田県秋田市 秋田大学・教育文化部

平成29年7月30日～平成29年8月30日3日

集中講義 フランス語会話&実践 秋田県秋田市 秋田大学・教育文化部

### (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

①平成29年3月15日～20日

トラベルスタディーズ（B）事前調査 フランス（ボルドー市）

②平成29年9月9日～23日

トラベルスタディーズ（B）フランス（ボルドー市）引率教員

③平成29年9月23～29日

弘前大学グローバル人材育成事業・フランス（ボルドー市）

## 楊 天 曦

## 川 瀬 卓

### (1)現在の研究テーマ

- 日本語史（語彙史・文法史）、副詞の歴史的研究、配慮表現の歴史的研究、地方議会会議録を用いた社会言語学的研究

### (2)著書、論文、その他

#### [論文]

- 川瀬卓「副詞「どうやら」の史的変遷」『語文研究』第124号、pp.44-56、単著、2017年12月、九州大学国語国文学会

#### [その他]

- 川瀬卓「七以呂波、横文字早学、太田氏会話篇」弘前大学地域未来創生センター藩校資料調査プロジェクト 東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録 第四集、pp.71-81、単著、2018年3月、弘前藩藩校資料調査プロジェクトチーム

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Suguru Kawase “Regional Differences in Conjunctives in the Minutes of Local Assemblies”, *Methods in Dialectology XVI*, single, National Institute for Japanese Language and Linguistics, August.7, 2017.
- 川瀬卓「仮定、可能性想定を表す副詞の史的展開—近代語の分析的傾向の一例—」近代語学会研究発表会、単独、白百合女子大学、2017年12月9日
- 川瀬卓「地方議会議録に見る接続表現の地域差」「議会議録を活用した日本語のスタイル変異研究」研究発表会、単独、国立国語研究所、2017年12月10日
- 川瀬卓「東奥義塾高校図書館蔵日本語学関係資料について」2017年度旧弘前藩藩校稽古館資料調査報告会、単独、弘前大学、2017年12月17日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「副詞と前置き表現に注目した配慮表現の歴史的研究」(研究代表者) 2016~2018年度

(7)共同研究、受託研究など

- 人間文化研究機構国立国語研究所共同研究プロジェクト(領域指定型)「議会議録を活用した日本語のスタイル変異研究」(プロジェクトメンバー(代表者:二階堂整)) 2016~2019年度

## 国際社会講座

### 齋藤 義彦

(1)現在の研究テーマ

- 現代ドイツ、ヨーロッパ文化

(2)著書、論文、その他

[その他、翻訳]

- 『2017年4月29日ブリュッセルで開催される27加盟国欧州臨時理事会に向けての連邦首相アンゲラ・メルケル博士のドイツ連邦議会における政府説明演説』『人文社会科学論叢』(社会科学篇)第3号、2017年8月
- 『ドイツ統一式典での連邦大統領フランク＝ヴァルター・シュタインマイアーの演説』『人文社会科学論叢』(社会科学篇)第4号、2018年2月

### 城本 るみ

(1)現在の研究テーマ

- ハンセン病問題、中国・台湾の高齢者福祉問題

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 城本るみ「台湾における外国人労働者の現状と課題」『社会福祉研究』第130号、pp.117-124、単著、2017年10月1日
- 城本るみ「外国人介護労働者の受け入れに関する課題—台湾の経験から—」『人文社会科学論叢』第4号、pp.101-122、単著、2018年2月

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費補助金 基盤 (C)「台湾の先事例に基づくハンセン病療養所の転用可能性に関する実証研究」(代表) 2016~2018年度

### 荷見 守義

(1)現在の研究テーマ

- 中国明代史・東アジア近世史

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 荷見守義「明代遼東武官の罪と罰—明初から宣徳年間までを中心に—」『人文研紀要』(中央大学人文科学研究所)第88号 pp.213-246. 単著、2017年9月30日
- 荷見守義「明代中国の辺防官制における海と陸」弘末雅士編『海と陸の織りなす世界史 港市と内陸社会』春風社、pp.97-113. 単著、2018年3月30日

[その他]

- 荷見守義「広名将譜」『弘前大学地域未来創生センター藩校資料調査プロジェクト 東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録』第四集、pp.46-49、単著、2018年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 荷見守義「明代遼東武官の罪与罰」明朝及其所处歴史時代国際学術研究会、単独、廊坊師範学院、2017年5月11～15日

[講演]

- 荷見守義「長城の政治学—明代中国・蘇州鎮の場合—」弘前大学人文社会科学部 国際公開講座2017、単独、弘前大学、2017年11月3日

[報告]

- 荷見守義「旧藩校資料 明人関係漢籍について」2017年度旧弘前藩校稽古館資料調査報告会、単独、弘前大学、2017年12月17日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「明代中国における審判・軍功評価事例の集積による辺疆統御様態の解明」(研究代表者) 2014～2017年度
- 基盤研究 (A)「近代移行期の港市と内陸後背地の関係に見る自然・世界・社会観の変容」(研究分担者) 2014～2017年度

## 林 明

(1)現在の研究テーマ

- ガンディー、サルボダヤ運動、スリランカの民族問題

(2)著書、論文、その他

[その他、フィールドワーク]

- 林明「インドにおける「ものづくり」日本語教育」、2017年12月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Akira HAYASHI, “Mahatma Gandhi, Sewagram Ashram and his connection with Japan”, Gandhian Forum for Ethical Corporate Governance, single, Hotel Villa Fontaine, Nihombashi, April 17, 2017.
- Akira HAYASHI, “Relationship between Japanese and Indian languages from a cultural point of view”, Global Partnership Summit, NPO corporation India Center, single, Aerocity, New Delhi, India, December 14, 2017.
- 林明「インダス文明とデジタル言語学」、「デジタル言語学」研究会、単独、別府市、2018年2月23日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ニューデリー (インド)、「日印グローバル・パートナーシップ・サミット」参加及び発表、2017年12月13日～15日

## 澤田 真一

(1)現在の研究テーマ

- ニュージーランド文学、マオリ文学、ポストコロニアル文学

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 澤田真一「マオリと反核の思想」ニュージーランド学会研究会、単独、岐阜大学、2017年6月3日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「ニュージーランドの反核芸術に用いられた広島イメージ群」(研究分担者) 2015～2017年度

## FUHRT VOLKER MICHAEL

(1)現在の研究テーマ

- 日本と東アジアにおける歴史認識、ナショナリズム、ポピュリズム、平和運動

## BUTLER ALASTAIR JAMES

(1)現在の研究テーマ

- コーパス / 英語 / 日本語 / 意味論 / 統語論

(2)著書、論文、その他

[論文]

- Stephen Wright Horn, Alastair Butler, Iku Nagasaki and Kei Yoshimoto. “Derived mappings for FrameNet construction from a parsed corpus of Japanese.” LREC 2018 Proceedings, International FrameNet Workshop, 11th edition of the Language Resources and Evaluation Conference, Miyazaki, Japan. pp. 28–32, 2018.
- 長崎郁, アラスデア・バトラー, スティーブ・ライト・ホーン, プラシヤント・パルデシ, 吉本啓. 「統語解析情報付きコーパス検索用インタフェースの開発」『言語処理学会第24回年次大会発表論文集』 pp. 1123–1126, 2018.
- Stephen Wright Horn, Alastair Butler and Kei Yoshimoto. “Keyaki Treebank segmentation and part-of-speech labelling.” 『言語処理学会第23回年次大会予稿集』 pp. 414–417, 2017.
- 周振, Alastair Butler, 吉本啓. 「中国語名詞句の内部構造について」『言語処理学会第23回年次大会予稿集』 pp. 46–49, 2017.

[その他]

- Stephen Horn and Alastair Butler. “The Man'yōshū97 Parsed Corpus”. 2017年5月18日公開.

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Alastair Butler, Stephen Wright Horn and Iku Nagasaki. “Seeding lexical semantics: resources using parsed corpora.” Exploiting Parsed Corpora: Applications in Research, Pedagogy, and Processing. 2017年12月9–10日.
- Susanne Miyata and Alastair Butler. “Developing a model of typical Japanese grammar development: The role of parsed corpora and parsing programs.” Exploiting Parsed Corpora: Applications in Research, Pedagogy, and Processing. 2017年12月9–10日.
- Alastair Butler, Stephen Wright Horn. “Annotating syntax and lexical semantics with (out) indexing.” Logic and Engineering of Natural Language Semantics 14, Bunkyo School Building in University of Tsukuba, 2017年11月15日.
- Alastair Butler, Stephen Wright Horn, Susanne Miyata, Zhou Zhen and Kei Yoshimoto “Parsed corpus annotation (adventures.” プロジェクト共同研究発表会. 神戸大学, 2017年11月4日.

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C) 「統辞・意味解析情報タグ付き日本語ツリーバンクからの視覚意味情報の抽出と応用」(研究代表者) 2015～2018年度

(7)共同研究、受託研究など

- 国立国語研究所 (2016) 『NINJAL Parsed Corpus of Modern Japanese』(バージョン1.0) 2018年3月13日
- Bjarke Frellesvig, Stephen Horn, et al. “Oxford-NINJAL Corpus of Old Japanese.” 2018年5月18日公開.

## 中 村 武 司

(1)現在の研究テーマ

- 西洋史、イギリス史・イギリス帝国史、近代ヨーロッパ史

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 中村武司 「1782年のウェストミンスター補欠選挙」『人文社会科学論叢』第3号、pp.85–100、単著、2017年8月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 中村武司 「財政軍事国家論の現在」大阪大学歴史教育研究会第110回例会、単独、大阪大学豊中キャンパス、2018年1月20日

[講演]

- 中村武司 「近世のイギリス——「イギリス」「帝国」「イギリス帝国」の意味や由来」神奈川県高等学校教科研究会・社会科部会歴史分科会高大連携講座〈近世ヨーロッパをどのように学ぶか〉、単独、横浜市立横浜商業高等学校、2017年8月2日

(4)学外集中講義など

- 「ヨーロッパとは何か——歴史と理念」、放送大学青森学習センター、2017年6月3日・4日
- 「西洋史」、ノースアジア大学経済学部、2018年2月13日～16日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- イギリス (ロンドン)、資料調査、2017年8月13日～30日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C) 「近世・近代イギリス史像の再考と財政海軍国家論」(研究代表者) 2017～2019年度

## 武井紀子

### (1)現在の研究テーマ

- 古代日本地方制度研究、出土文字資料研究、日唐律令制比較研究

### (2)著書、論文、その他

#### [著書]

- 武井紀子「古代日本の農事慣行と地方官人」吉川真司・倉本一宏編『日本的時空観の形成』pp.193-224、共著、2017年5月、思文閣出版
- 武井紀子「東アジアの中の日本文字資料—人・物の管理方法を中心として—」犬飼隆編『古代文学と隣接諸学4 古代の文字文化』pp.505-532、共著、2017年7月、竹林舎
- 大津透・池田尚隆編・武井紀子他『藤原道長事典 御堂閔白記からみる貴族社会』pp.98-134, 228-261、共著、2017年9月、思文閣出版
- 武井紀子「北奥地域における出土文字資料と蝦夷—青森県域の文字資料を中心として—」小口雅史編『古代国家と北方世界』pp.263-290、共著、2017年10月、同成社
- 武井紀子「日唐律令制における官物管理—監臨官の不正と官物補填をめぐる—」佐藤信編『律令制と古代国家』pp.22-51、共著、吉川弘文館

#### [書評]

- 武井紀子「共同「本庄聡子氏報告「律令国家と「天平の転換」—出挙制の展開を中心に—」について」、『日本史研究』第656号、pp.44-48、単著、2017年4月

#### [その他]

- 武井紀子「改選諸家系譜」「武徳編年集成」「川角太閤記」「平成二十九年度東奥義塾高校図書館蔵藩校資料調査成果報告」「弘前大学地域未来創生センター藩校資料調査プロジェクト 東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録」第四集、pp.50-64, 148-151、共著、2018年3月
- 武井紀子「コラム 墨書土器」佐藤信・小口雅史編『古代史料を読む』上、pp.289~291、単著、同成社、2018年3月

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 武井紀子「唐日義倉制再考—戸等制を切り口として—」東北中国学会、単独、アソベの森いわき荘、2017年5月27日~28日
- 武井紀子「律令制研究と井上光貞」井上光貞生誕100周年記念シンポジウム、単独、明治大学駿河台キャンパス、2017年9月30日

#### [講演]

- 武井紀子「古代能代を考える—一元慶の乱と能代営」能代市民おもしろ塾、単独、能代中央公民館、2017年10月14日
- 武井紀子「博物館歴史講座 古代の歴史書にあらわれた津軽」弘前市立博物館、単独、2017年11月26日

#### [調査報告]

- 武井紀子「東奥義塾高校図書館蔵「改選諸家系譜」について」、2017年度旧弘前藩藩校稽古館資料調査報告会、単独、弘前大学、2017年12月17日

### (4)学外集中講義など

- 出張講座「世界から津軽へ、津軽から世界へ—文字の伝播からみた古代日本と津軽—」弘前南高校、2017年7月3日
- 出前講義「東西文明をつなぐ道—シルクロードと探検の世紀—」青森南高校、2017年9月8日
- 出前講義「古代東北の歴史と水沢—阿弖流為と坂上田村麻呂—」水沢第一高校、2018年2月28日

### (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 中国（西安）調査、科学研究費・若手研究（B）「古代倉庫と国家支配構造に関する基礎的研究」（研究代表者）にかかる調査活動、2017年8月28日~9月2日

### (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 若手研究（B）「古代倉庫と国家支配構造に関する基礎的研究」（研究代表者）2015~2017年度

### (7)共同研究、受託研究など

- 東京大学史料編纂所 共同研究課題「平安時代基本典籍・記録類の史料学的再検討」（代表：山口英男）、共同研究員、2017年度

### (8)学会・研究会・講演会などの開催

#### [弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 弘前大学地域未来創生センター藩校資料調査プロジェクト「東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩校稽古館資料調査報告会」、弘

前大学、2017年12月17日

[それ以外のもの]

- 平成29年度弘前大学国史研究会大会、弘前大学国史研究会、2017年9月17日

## 亀谷 学

(1)現在の研究テーマ

- 初期イスラーム時代史、イスラーム世界における政治と宗教、イスラーム世界における驚異と古代

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 柴田大輔・中町信孝・亀谷学 他『イスラームは特殊か』、分担執筆、2018年2月、勁草書房

[論文]

- Manabu Kameya “From Qustal to Jahbadh: An Aspect of Transition on the Egyptian Tax-Collecting System” *New Frontiers of Arabic Papyrology*, pp.141-160、単独、2017年6月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Manabu Kameya “Fasi Numerals and Use of Money in the Vellum Documents”, *al-Maghrib wa al-Yaban: Ru'ya tarikhiya mutaqa'ti'a*, single, December. 27, 2017.
- Manabu Kameya “Eastern Fars in the Early Islamic Period: Analysis from Numismatic Evidence”, Eighth Biennial Convention of the Association for the Study of Persianate Societies, single, March. between 15 and 18, 2018.

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (A)「前近代ユーラシア西部における貨幣と流通のシステムの構造と展開」(研究分担者) 2016年度～2019年度

## 情報行動講座

### 奥野 浩子

(1)現在の研究テーマ

- 動詞の意味構造
- 日本語と英語と韓国語の対照

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 奥野 浩子「様態動詞と結果動詞」『人文社会科学論叢』第4号、pp.75-83、単著、2018年2月

### 佐藤 和之

(1)現在の研究テーマ

- 地域社会の言語変容研究

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 佐藤和之監修「『やさしい日本語』で表現するカタカナ外来語・アルファベット単位記号用語辞典」、共著、2018年3月、弘前大学人文学部社会言語学研究室

[論文]

- 佐藤和之「消防行政への外国人住民のための『やさしい日本語』適用を考える～首都直下地震・南海トラフ地震発生前の言語対策提言～」『消防防災の科学』第128号、pp.23-31、単著、2017年4月
- 佐藤和之「災害時にフェイルセーフとして機能する外国人住民のための『やさしい日本語』～首都直下型地震・南海トラフ地震発生前の言語対策提言～」『住民行政の窓』第444号、pp.4-16、単著、2017年8月
- 佐藤和之「増える外国人利用者の安全と図書館～災害時の利用者の安全を『やさしい日本語』で担保する～」『専門図書館』第287号、pp.33-39、単著、2018年1月

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「南海トラフ地震に対応した外国人住民への『やさしい日本語』適応の研究」(研究代表者) 2017～2019年度

- 挑戦的萌芽研究「アジア諸国との関係において日本語が抱えるソフトパワーとしての言語政策的役割研究」(研究代表者) 2014～2017年度

## 曾 我 亨

### (1)現在の研究テーマ

- 東アフリカ牧畜社会における気候変動と紛争
- 東アフリカにおける難民の生存を可能にした新たな経済活動
- 人類の進化史的基盤に関する研究

### (2)著書、論文、その他

#### [論文]

- 曾我亨「これからの「地域学」」『地理』第62巻4号、pp.29-37、単著、2017年4月

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 曾我亨「私のモノは、誰のモノーアフリカ牧畜社会から考える」アフリカセミナー、単独、仙台国際センター、2017年6月15日
- 曾我亨「リスク否認をどのように理解するか」サントリー文化財団プロジェクト「21世紀の「他者」理解」研究会、単独、北海道大学、2017年7月1日
- 日比野愛子、曾我亨「働き方の変革にかかわる規格化の役割：青森県中小企業を事例として」日本グループ・ダイナミックス学会、共同、東京大学、2017年9月30日～10月1日

### (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「東アフリカ牧畜社会における降雨変動と紛争のメカニズム」(研究代表者) 2014～2017年度
- 基盤研究 (B)「援助と投資の経済人類学：エチオピアの食料資源の市場化／脱市場化に関する実証分析」(研究分担者) 2014～2018年度

### (7)共同研究、受託研究など

- 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員

## 大 橋 忠 宏

### (1)現在の研究テーマ

- 空港や路線の特性を考慮した国内及び国際航空市場特性の検討
- 弘前市を含む津軽地方における持続可能な公共交通サービスの設計

### (2)著書、論文、その他

#### [論文]

- 大橋忠宏、柴田優起「新幹線整備が北海道・北東北の旅客市場に与える影響」『弘前大学経済研究』第40号、pp.55-65、弘前大学経済学会、共著、2017年12月

### (4)学外集中講義など

- 平成29年度後期「地域と情報ネットワーク」青森公立大学、2017年9～11月

## 羽 瀧 一 代

### (1)現在の研究テーマ

- 親密性と近代化
- 高度情報化とメディア文化の成熟

### (2)著書、論文、その他

#### [論文]

- 羽瀧一代「書評 遠藤薫編『ソーシャルメディアと〈世論〉形成』」『社会学評論』第68巻第3号、pp.461-463、単著、2017年12月

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 羽瀧一代「若者の友人関係とジェンダー(2)」日本社会学会大会、単独、2017年11月4日～5日
- 羽瀧一代「若者の親密性の変容」日本社会学会大会、単独、2017年11月4日～5日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (B)「情報化社会における青少年の性の実態と性教育問題の社会学的解明」(研究分担者)、2015～2018年度
- 基盤研究 (B)「ポスト・モバイル社会に関する社会学的研究」(研究分担者)、2015～2018年度

## 内海 淳

(1)現在の研究テーマ

- XML規格を用いた文書処理

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 内海淳「グループ学習における貢献度の可視化について」『2017 PC Conference 論文集』、pp.121-122、単著、2017年8月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 内海淳「グループ学習における貢献度の可視化について」2017 PC Conference、単独、慶応大学、2017年8月5日～7日

## 増山 篤

(1)現在の研究テーマ

- 地理的な近接性(アクセシビリティ)に関する理論的・実証的研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 増山篤「フリーのデータ、ツール、サービスによる地点間距離・移動時間の計算実験」『GIS—理論と応用』第25巻第2号、pp.71-78、単著、2017年12月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 増山篤「オープン空間データ、オープンソースGISを利用した学生実習の一例」第9回 東北ブロック地理空間情報産学官地域連携協議会、単独、2018年1月25日

[講演]

- 増山篤「フリーソフト、オープンデータによる地域課題の可視化」地域未来創生塾@中央公民館、2018年1月24日

## 日比野 愛子

(1)現在の研究テーマ

- モノのグループ・ダイナミックス(道具と組織の相互変容過程)
- ゲーミングを活用したコミュニケーションデザイン

(2)著書、論文、その他

[その他]

- 日比野愛子「地域資源を興すローカル・イノベーション」『人間会議』第37号、単著、2017年12月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 日比野愛子・曾我亨「働き方の変革にかかわる規格化の役割:青森県中小企業を事例として」日本グループ・ダイナミックス学会第64回大会、共同、東京大学本郷キャンパス、2017年9月30日
- 日比野愛子「ゲームでつながる働き方改革」地域塾・組織塾11月例会、単独、2017年11月25日
- 日比野愛子「社会シミュレーションにみる予測の接続」第16回科学技術社会論学会年次大会、単独、九州大学、2017年11月26日
- 日比野愛子「反転する人工物:人工物と集団をとらえる技術論の潮流」テクノロジー利用を伴う身体技法に関する学際的研究第5回研究会、単独、国立民俗学博物館、2018年2月3日

(4)学外集中講義など

- 放送大学青森学習センター面接授業「社会の中で萌芽する技術」(2018年10月28日、29日)

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 調査(国立台湾大学、2018年3月1日～3月7日)

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 若手研究 (B)「<生命>の多重的構成過程に関する実証研究・国内人工細胞実験室を対象に」(研究代表者)、2016~2018年度
- 基盤研究 (A)「『予測』をめぐる科学・政策・社会の関係—科学社会学からのアプローチ」(研究分担者)、2015~2018年度
- 科学技術融合振興財団「エスノグラフィにもとづく文化係留型ゲーミング・シミュレーションの開発実践」(研究代表者) 2017年度~2018年度

## 花 田 真 一

### (1)現在の研究テーマ

- 実証産業組織論

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

HANADA, Shin-ichi "Alleviating the Voltage Control Problem in Low-voltage Systems using Auction System", International Conference of Japan Economic Policy Association, 喜久里浩之、藤本悠、林泰弘、五十川大也、大橋弘、芳澤信哉と共著、那覇市民会館、2017年11月4日

#### [講演]

- 大阪ガス・競争と規制研究会「電力自由化が全電化住宅に与える影響についての研究計画」、ガスビル、2018年3月22日

### (4)学外集中講義など

- 出張講義「産業について考えよう」、武生商業高校(福井県)、6月
- 出張講義「経済学って何だろう」、新湊高校(富山県)、6月
- オープンキャンパス模擬講義「経済学って何だろう」、金沢星稜大学(石川県)、9月

## 古 村 健 太 郎

### (1)現在の研究テーマ

- 恋人間暴力、恋愛関係の維持と精神的健康、アタッチメント理論から見た失恋経験

### (2)著書、論文、その他

#### [論文]

- 古村 健太郎「接近・回避コミットメントが恋愛関係における感情経験に与える影響—行為者—パートナー相互依存性調整モデル(APIMoM)による検討—」、『実験社会心理学研究』第56巻、pp.195-206、単著、2017年4月
- 金政祐司、浅野良輔、古村健太郎「愛着不安と自己愛傾向は適応性を阻害するのか?:周囲の他者やパートナーからの被受容感ならびに被拒絶感を媒介要因として」『社会心理学研究』第33巻、pp.1-15、2017年9月
- 金政祐司、古村健太郎、浅野良輔「青年期におけるセックス—セックスからの逃走とセックスとの闘争」『心理学ワールド』第79号、pp.9-12、2017年10月
- 高本真寛、古村健太郎「大学生におけるアルバイト就労と精神的健康および修学との関連」『教育心理学研究』第66巻、pp.14-27、2018

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 古村健太郎「アタッチメントと失恋の受容—元恋人へのアタッチメント欲求が失恋の受容を遅らせる?—」奥羽ネガティブ心理学研究会、単独、東北福祉大学、2017年8月5日
- 相馬敏彦、杉山詔二、伊藤言、古村健太郎、西田公明、島田貴仁「DVをどう防ぐことができるか—リスク因子の解明と変容に向けて」日本心理学会第81回大会、共同、久留米シティプラザ、2017年9月
- 古村健太郎、戸田弘二、村上達也、城間益里「失恋からの回復と元恋人へのアタッチメント—元恋人へ向けられたアタッチメント欲求が失恋の受容を遅らせる—」日本心理学会第81回大会、共同、久留米シティプラザ、2017年9月
- 城間益里、古村健太郎、戸田弘二、村上達也「失恋後ストーキングに関する探索的検討」日本心理学会第81回大会、共同、久留米シティプラザ、2017年9月
- 金政祐司、浅野良輔、古村健太郎「夫婦関係と適応(1)—愛着不安と自己愛が被受容感を媒介して抑うつ傾向ならびに攻撃性に及ぼす影響—」日本グループ・ダイナミクス学会第64回大会、共同、東京大学、2017年9月
- 宇井美代子、小田切紀子、古村健太郎、松井豊「韓国の成人男女における Ambivalent Sexism」日本社会心理学会第58回大会、共同、広島大学、2017年10月
- 浅野良輔、古村健太郎、金政祐司「夫婦関係と適応(2)—共有された関係効力性が主観的・心理的幸福感に与える影響—」日本社会心理学会第58回大会、共同、広島大学、2017年10月

- 古村健太郎、金政祐司、浅野良輔「夫婦関係と適応 (3) —接近・回避コミットメントと心理的暴力の被害経験—」日本社会心理学会第58回大会、共同、広島大学、2017年10月
  - 古村健太郎「接近・回避コミットメントの特異項目機能および関係継続に対する予測力の検討」日本教育心理学会第59回大会、単独、名古屋国際会議場、2017年10月
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 科学研究費補助金・研究活動スタート支援、「webメールを用いた恋人間暴力の予防的介入プログラムの開発」(研究代表者) 2016~2017年度
- (8)学会・研究会・講演会などの開催
- [弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]
- 地域未来創生塾「恋愛関係を対象とした「教育」は可能か？」弘前大学地域未来創生センター、2017年11月22日
- [それ以外のもの]
- 東北税理士会研修会「心理学から見た恋愛関係のブライトサイドとダークサイド」、東北税理士会、2017年9月14日
  - 平成29年度第3回人にやさしい社会推進セミナー「恋愛関係を心理学から考える~二人だけの世界がもたらす帰結は“幸せ”か“不幸せ”か~」、弘前市市民参画センター、2018年3月14日
  - 筑波大学附属高等学校心理学講習会「選バレンタイン~LINEで心を掴むには~」、筑波大学附属高等学校、2018年1月26日

## ビジネスマネジメント講座

### 保田宗良

#### (1)現在の研究テーマ

- 地域医療の質的向上と医療マーケティングシステムの今後の展開について

#### (2)著書、論文、その他

##### [論文]

- 保田宗良「地域医療の質的向上と医療サービスの新たな形態」『消費経済研究』第6号、pp.44-54、単著、2017年6月
- 保田宗良「マーケティング思考による医療サービス研究の一試論」『人文社会科学論叢』第3号、pp.33-42、単著、2017年8月

##### [その他]

- 保田宗良「医療マーケティングと薬局イノベーションについての考察」『中央大学学外大学教授白門会』第29号、pp.28-32、単著、2018年2月
- 保田宗良「高校生・高校教員への消費者教育アンケート調査の結果」『2017年度 弘前大学人文社会科学部消費者教育推進事業報告書 弘前大学における消費者教育の調査・実践報告』pp.5-14、単著、2018年3月

#### (3)研究発表、講演

##### [研究発表]

- 保田宗良「医療マーケティング戦略の変革についての考察」日本消費経済学会全国大会、単独、大阪商業大学、2017年7月2日
- 保田宗良「マーケティング思考の医療サービスとまちづくりの考察」日本産業経済学会第72回研究例会、単独、流通科学大学、2017年11月25日
- 保田宗良「医療マーケティングと薬局イノベーションの展開」日本消費経済学会東日本大会、単独、日本大学商学部、2017年12月16日
- 保田宗良「健康マーケティングと薬局イノベーションの進展」日本消費経済学会北海道・東北部会研究報告会、単独、北星学園大学、2018年3月24日

##### [講演]

- 保田宗良「高校生・高校教員への消費者教育アンケート調査の結果」消費者フォーラム in HIROSAKI、単独、弘前大学人文社会科学部、2018年1月27日
- 保田宗良「消費者教育の高大連携のあり方」青森県消費者問題研究会研修会、単独、青森県民福祉プラザ、2018年2月24日

#### (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「地域医療の質的向上を意図した医療マーケティングシステムの構築」(研究代表者) 2017~2019年度

#### (8)学会・研究会・講演会などの開催

##### [弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 消費者フォーラム in HIROSAKI、弘前大学、2018年1月27日

[それ以外のもの]

- 日本経営学会東北部会例会、弘前大学、2017年5月13日

## 加藤 恵吉

(1)現在の研究テーマ

- 国際課税、法人税法、コーポレートガバナンスと会計

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 中島茂幸編、櫻田譲著『[第3版] ベーシック税務会計〈企業課税編〉』pp.5-7, 53-63, 121-123, 253-255、共著、2018年1月、創成社

[論文]

- Hiroshi Ohnuma, Keikichi Kato "CORPORATE TAX AVOIDANCE, DEBT RATIO AND CORPORATE GOVERNANCE: EVIDENCE FROM JAPAN", 29TH ASIAN-PACIFIC CONFERENCE ON INTERNATIONAL ACCOUNTING ISSUES, pp.429-464, 共著, November.7, 2017.
- 黄 孝春、ピクター・カーペンター、加藤恵吉他「自然栽培法がもたらす付加価値について—販売・加工の側面から—」『地域未来創生センタージャーナル』pp.35-40、共著、2018年2月

[その他]

- Hiroshi Ohnuma, Keikichi Kato "Corporate tax avoidance, debt ratio, and corporate governance: evidence from japan", ASIAN-PACIFIC CONFERENCE ON INTERNATIONAL ACCOUNTING ISSUES, pp.75, 共著, November.7, 2017

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Hiroshi Ohnuma, Keikichi Kato "Corporate tax avoidance, debt ratio, and corporate governance: evidence from japan", 29th Asian-pacific conference on International Accounting Issues, 共同, Kaula Lumpur, Malaysia, November.5, 2017

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C) 「コーポレート・ガバナンスの巧拙と不祥事発生事典の株価下落の関係解明に関する研究」(研究分担者) 2017~2021年度

## 森 樹 男

(1)現在の研究テーマ

- 日系多国籍企業の地域統括本社制
- 北欧の地域活性化モデルと青森県
- 同人マンガの電子書籍化と海外展開
- 地方企業における商品開発とデザイン
- 観光ビジネスと地域活性化

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 森樹男「第7章経営学教育とキャリア形成」菅原良、松下慶太、木村拓也、渡辺昌平、神崎秀嗣他『キャリア形成支援の方法論と実践』、pp.127-141、共著、2017年11月、東北大学出版会

[その他]

- 森樹男「低・未利用水産資源であるムラサキイガイ活用法の開発とブランド化」『地域未来創生ジャーナル』、単著、2018年2月
- 森樹男編『めざせ！じょっぱり起業家 青森の魅力を高める中核人材育成事業 平成29年度事業成果報告書』、共著、2018年2月、弘前大学
- 森樹男編『弘前大学人文学部ビジネスシミュレーション実習Ⅱ・Ⅲ 課題解決型学習と学生の主体的な学び—大学生のチャレンジ2017—報告書』共著、2018年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 森樹男「ASEAN経済統合と日系多国籍企業のアジア地域統括本社の動向」国際ビジネス研究会北海道・東北部会 第10回、単独、北海道大学、2017年8月19日

- 森樹男「めざせ!じょっぱり起業家。青森県の魅力を高める中核人材育成事業」平成29年度産学連携サービス経営人材育成事業 第2回シンポジウム・セミナー、単独、TKP心斎橋駅前カンファレンスセンター、2017年10月13日
- 森樹男「低・未利用水産資源であるムラサキガイ活用法の開発とブランド化」平成29年度弘前大学若手・新任研究者支援事業採択者並びに青森ブランド価値創造研究採択者による成果発表会、単独、弘前大学、2018年3月1日

[講演]

- 森樹男「地域資源を活かした青函連携・交流の可能性」青函圏フォーラム、単独、フォーポイントバイジェラトン函館、2017年12月19日

(4)学外集中講義など

- 黒石商業高校・インバウンドツアー講座「外国人観光客はどこに来ているのか?～青森県のインバウンドの状況を踏まえて～」黒石商業高等学校、2017年5月9日
- 黒石商業高校・インバウンドツアー講座「外国人観光客の楽しみとは?～国による違いを考えよう～」黒石商業高等学校、2017年5月31日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 台湾、グローバル人材育成事業によるスタディツアー、2017年8月27日～30日
- シンガポール、地域統括マネジメントに関する調査、2018年3月19日～22日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究(C)「日系多国籍企業のアジア地域統括本社の機能高度化とアセアン経済共同体の創設」(研究代表者)、2015年度～2017年度
- 経済産業省「産学連携サービス経営人材育成事業」(事業実施代表者)、2015年度～2017年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- 多国籍企業学会東西合同研究会、弘前大学、2017年9月9日

## 熊 田 憲

(1)現在の研究テーマ

- 地域イノベーション、イノベーション、地域におけるクラウドファンディングの活用

(2)著書、論文、その他

[その他、研究ノート]

- 多賀祥治、熊田憲、五月女政義「地域活性化プロセスに存在する障壁に関する考察」『事業創造大学院大学紀要』第8巻第1号、pp.91-105、共著、2017年4月

[その他、Working Paper]

- 熊田憲、小杉雅俊「クラウドファンディングによる地域活性化の可能性と課題—青森県のアグリビジネスを事例に—」『東日本カンファレンス2017in弘前 研究・事例発表要旨集』pp.25-29、共著、2017年9月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 熊田憲、小杉雅俊「クラウドファンディングによる地域活性化の可能性と課題—青森県のアグリビジネスを事例に—」産学連携学会・地域活性化学会・日本地域政策学会共催 第4回産学連携学会東日本リエゾンカンファレンスin弘前2017、共同、弘前大学コラボ弘大、2017年9月15日
- 熊田憲「イノベーション活動を促す地位期のメカニズムに関する一考察」第42回弘前大学経済学会、単独、弘前大学人文社会科学部、2017年10月27日

[学内報告会等]

- 熊田憲、小杉雅俊「青森県農産物のビジネス・マネジメント・システムの体系化に関する理論構築」戦略1中間報告会、共同、弘前大学創立50周年記念会館、2017年9月4日
- 熊田憲、小杉雅俊「青森県農産物のビジネス・マネジメント・システムの体系化に関する理論構築」平成29年度「戦略1」事業「国際競争力のある青森ブランド食産業の創出に向けた“青森型地方創生サイクル”の確立(取組3)」研究成果報告会、共同、弘前大学創立50周年記念会館、2018年2月5日

[講演]

- 熊田憲「イノベーションって何?—こんなに社会は変化した—」弘前大学オープンキャンパス、単独、弘前大学、2017年8月8日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 弘前大学平成29年度「戦略1」事業「国際競争力のある青森ブランド食産業の創出に向けた“青森型地域創生サイクル”の確立（取組3）」研究助成「青森県農産物のビジネス・マネジメント・システムの体系化に関する理論構築」（共同研究）2017年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 平成29年度産学連携サービス経営人材育成事業「めざせ！じょっぱり起業家。青森の魅力を高める中核人材育成事業 平成29年度成果報告会」ヒロロ4階 市民文化交流館ホール，2017年12月22日

## 高島 克史

(1)現在の研究テーマ

- 経営戦略論，ベンチャー企業論

(4)学外集中講義など

- 出前講義「経営学を学ぶと得られる力」能代高校，2017年9月20日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 台湾、グローバル社会・経済「外から見た青森・日本」、2018年3月5日～11日
- 台湾、スタディツアー、2018年3月14日～16日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 経済産業省サービス経営人材育成事業「めざせ じょっぱり起業家 青森県の魅力を高める中核人材育成事業」（分担者）2015年度～2017年度

(7)共同研究、受託研究など

- 板柳町「板柳町ふるさとセンターの機能強化研究」（研究代表者）2017年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 平成29年度「めざせじょっぱり起業家—大学生のチャレンジ2017」成果報告会，ヒロロ，2017年12月22日

## 内藤 周子

(1)現在の研究テーマ

- 財務会計、IFRS、公会計、農業会計

(2)著書、論文、その他

[その他]

- 黄孝春、ビクター・カーペンター、加藤恵吉、内藤周子、小杉雅俊「自然栽培法がもたらす付加価値について—販売・加工の側面から—」『地域未来創生ジャーナル』共著、2018年2月。

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 内藤周子「地域企業と連携した課題解決型学習における簿記・会計」日本会計研究学会第92回東北部会・研究発表、単独、弘前大学、2017年7月29日。
- Naito Shuko, “Conceptual Frameworks: A Text Mining Approach”, Meditari Accountancy Research Conference 2017 Annual Meeting, 単独, Kwansai Gakuin University, September.29, 2017.
- 内藤周子「『財務報告に関する概念フレームワーク』の分析をととした会計モデル選択に関する考察」2018年春季・沖縄会計学ワークショップ、単独、沖縄国際大学、2018年2月19日。
- 内藤周子「農業会計における収益認識—自然栽培の事例—」日本会計研究学会第93回東北部会・研究発表、単独、福島学院大学、2018年3月25日。

[ディスカッサント]

- Hans Andreas; Bagus Putra; Arthik Daviantl, “The Implementation of IFRS in Indonesia: A Case Study of Employee Benefit Standard Adoption and Financial Performance”, Meditari Accountancy Research Conference 2017 Annual Meeting, Kwansai Gakuin University, September. 29, 2017.

(4)学外集中講義など

- ナビゲートキャラバン（於：青森北高校），2017年10月

- 大学個別進学説明会（於：函館中部高校），2017年10月
  - 弘前大学見学会（木造高校），2017年10月
  - 学校説明会（於：黒石商業高校），2018年03月
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 若手研究 (B)「農業会計における測定属性の理論形成と財務指標の開発」(研究代表者) 2017年度～2019年度
- (8)学会・研究会・講演会などの開催
- [弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]
- 「グローバル経済を支える会計・監査」(公認会計士・監査審査会会長)，2017年05月
  - 第42回弘前大学経済学会，2017年10月
  - 地域未来創生センターフォーラム「自然栽培法がもたらす付加価値について—販売・加工の側面から—」，2018年01月
- [それ以外のもの]
- 日本会計研究学会第92回東北部会、弘前大学、2017年7月29日

## 大 倉 邦 夫

### (1)現在の研究テーマ

- 企業の社会的責任、社会的協働、ソーシャル・ビジネス、協働マネジャー

### (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 若手研究 (B)「社会的協働のマネジメントにおける協働マネジャーの役割に関する研究」(研究代表者) 2015年度～2017年度

### (8)学会・研究会・講演会などの開催

#### [弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 地域未来創生センター第3回地域未来創生塾「ソーシャル・ビジネス～社会的課題をビジネスの手法で解決する～」弘前文化センター、2017年11月8日

## 小 杉 雅 俊

### (1)現在の研究テーマ

- イギリスにおける品質原価計算
- プロセスコストモデルの実務適用と展開
- 地域におけるクラウドファンディングの活用
- 農福連携で機能するマネジメント・コントロール・システムについての事例研究

### (2)著書、論文、その他

#### [その他、Working Paper等]

- 熊田憲・小杉雅俊「クラウドファンディングによる地域活性化の可能性と課題 —青森県のアグリビジネスを事例に—」『東日本カンファレンス2017in弘前 研究・事例発表要旨集』pp.25-29、共著、2017年9月
- 小杉雅俊「農作物の品質向上に主眼を置いたマネジメント・コントロール・システムの考察と検討」『平成29年弘前大学若手・新任研究者支援事業研究成果集』pp.40、単独、2018年3月

#### [その他、プロジェクト事業報告書]

- 黄孝春、ピクター・カーペンター、加藤恵吉、内藤周子、小杉雅俊「自然栽培法がもたらす付加価値について —販売・加工の側面から—」『地域未来創生ジャーナル』第4号、pp.35-40、共著、2018年2月

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 小杉雅俊「1960年代における品質原価の再検討 —Feigenbaumによる理論的枠組みの意義と展開—」日本会計研究学会 第92回東北部会、単独、弘前大学、2017年7月29日
- Masatoshi Kosugi “Historical positioning of the trade-off relationship of quality cost elements in the evolution of quality costing”, *The Ninth Accounting History International Conference*, 単独, Dipartimento di Economia aziendale, Università di Verona, Italy, September 8, 2017.
- 熊田憲・小杉雅俊「クラウドファンディングによる地域活性化の可能性と課題 —青森県のアグリビジネスを事例に—」産学連携学会・地域活性学会・日本地域政策学会共催 東日本リエゾンカンファレンス2017、共同、弘前大学コラボ弘大、2017年9月15日
- Masatoshi Kosugi “A Study on Conceptual Framework about Quality Costing: Is there a trade-off relationship

necessary?”, *Accounting Research Seminars*, 単独, University of Sussex, *the United Kingdom*, November 1, 2017.

[学内報告会等]

- 熊田憲・小杉雅俊「青森県農産物のビジネス・マネジメント・システムの体系化に関する理論構築」戦略1中間報告会、共同、弘前大学創立50周年記念会館、2017年9月4日。
- 熊田憲・小杉雅俊「青森県農産物のビジネス・マネジメント・システムの体系化に関する理論構築」平成29年度「戦略1」事業「国際競争力のある青森ブランド食産業の創出に向けた“青森型地域創生サイクル”の確立（取組3）」研究成果報告会、共同、弘前大学創立50周年記念会館、2018年2月5日
- 小杉雅俊「農作物の品質向上に主眼を置いたマネジメント・コントロール・システムの考察と検討」平成29年度弘前大学若手・新任研究者支援事業採択者並びに青森ブランド価値創造研究採択者による成果発表会、単独、弘前大学学生会館、2018年3月1日

(4)学外集中講義など

- 平成29年度教員免許更新講習「管理会計学の動向と方向性を考える」単独、弘前大学教育学部、2017年7月30日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 2018年9月3日～9月10日 イタリア
- 2018年10月28日～11月12日 イギリス

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 日本学術振興会 科学研究費助成事業（若手研究B）「イギリスにおけるトレードオフ関係を使わない新しい品質コストマネジメントの研究」（研究代表者）2017年度～2018年度
- 平成29年度弘前大学「戦略1」事業「国際競争力のある青森ブランド食産業の創出に向けた“青森型地域創生サイクル”の確立（取組3）」研究助成「青森県農産物のビジネス・マネジメント・システムの体系化に関する理論構築」（共同研究）2017年度
- 平成29年度弘前大学若手・新任研究者支援事業研究助成「農作物の品質向上に主眼を置いたマネジメント・コントロール・システムの考察と検討」（研究代表者）2017年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 特別講演「グローバル経済を支える会計・監査」（公認会計士・監査審査会会長廣本敏郎先生）、弘前大学、2017年5月15日
- 平成29年度地域未来創生センターフォーラム「自然栽培法がもたらす付加価値について」（総合司会担当）主催：弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター、共催：青森県木村式自然栽培実行委員会、弘前大学50周年記念会館、2018年1月20日

[それ以外のもの]

- 日本会計研究学会 第92回東北部会、弘前大学、2017年7月29日
- 弘前大学経済学会 第42回大会、弘前大学、2017年10月27日

## 経済システム講座

北 島 誓 子

(1)現在の研究テーマ

- 連携形態の政治・経済・社会的基礎
- 知識の産業化
- 社会資本の再定義

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 北島誓子 *Political economy of growing collaborative apparatuses*. *Proceedings, 8th Annual Conference in Political Economy*, Berlin School of Economics and Law, Berlin, 単著、2017年9月
- 北島誓子「連携方式の発展と理論的課題」『弘前大学経済研究』、pp.17-28、単著、2017年12月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Seiko Kitajima “Political economy of growing collaborative apparatuses”, 8th Annual Conference in Political Economy, Berlin School of Economics and Law, Berlin, 単独、2017年9月13日

(5)海外出張・研修・そのほかの海外での活動など

- 学会発表および会議、Berlin School of Economics and Law、ベルリン、2017年9月

## 池田 憲隆

### (1)現在の研究テーマ

- 1883年から実施された長期軍備拡張計画の政治経済的影響について

### (2)著書、論文、その他

#### [論文]

- 池田憲隆「1883年以降の軍備拡張計画に基づく日本海軍の艦船輸入について（上）」『人文社会科学論叢』第4号、pp.123-136、単著、2018年2月

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 池田憲隆「1883年度以降の軍備拡張計画に基づく日本海軍の艦船輸入について」2017年度政治経済学・経済史学会秋期学術大会、単独、大阪商業大学、2017年10月20日～21日

### (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「近代日本における長期軍備拡張計画が及ぼした政治経済的影響に関する研究」（研究代表者）2016年度～2018年度

## 細矢 浩志

### (1)現在の研究テーマ

- EU統合下の欧州自動車産業の変容に関する実証研究

### (2)著書、論文、その他

#### [論文]

- 細矢浩志「中東欧自動車産業の『高度化』と欧州生産ネットワークの行方」『産業学会研究年報』第33号、pp.121-141、単著、2018年3月

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 細矢浩志「中東欧自動車産業の新展開—産業高度化と欧州生産ネットワークの変容—」産業学会第55回全国大会、単独、機械振興会館、2017年6月10日

### (4)学外集中講義など

- 「生活と経済」弘前医療福祉大学、2017年4月1日～9月30日
- 「社会経済論」弘前医療福祉大学、2017年10月1日～11月30日

### (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ベルギー/チェコ、欧州自動車企業の国際分業に関する現地調査（現地事務所・工場視察）、2017年9月23日～30日

### (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「欧州自動車多国籍企業の生産ネットワーク戦略の基本構造と進化に関する実証的研究」（研究代表者）2017年度～2020年度

### (8)学会・研究会・講演会などの開催

#### [それ以外のもの]

- 弘前大学経済学会「第42回大会」弘前大学、2017年10月27日

## 黄 孝 春

### (1)現在の研究テーマ

- りんご産業の経済分析、コメの自然栽培、鉄鉱石価格の決定方式

### (2)著書、論文、その他

#### [著書]

- 黄孝春『企業体制改革とその行方』pp.79-99、共著、ミネルヴァ書房、2018年3月

#### [その他]

- 黄孝春「米国のリンゴ産地」『日本農業新聞』2017年10月
- 黄孝春「海外リンゴ事情」『林檎商組日報』2018年2月

- 黄孝春「借用生物力量的自然栽培」『果農之友』2018年2月
- 黄孝春「維護生物多樣性，提高果樹生產率」『果農之友』2018年3月
- 黄孝春・カーペンター・加藤恵吉・内藤周子・小杉雅俊「自然栽培法がもたらす付加価値について—販売・加工の側面から—」『弘前大学特定プロジェクト地域未来創生センタージャーナル』2018年2月
- 黄孝春「安全神話の陰で遅れをとる日本のオーガニック」『自然栽培』Vol.14、東邦出版、2018年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- huang xiao chun“Industrial organization of China’s steel industry and the restructuring of the Asia-Pacific iron ore market” china’s new normal growth、単独、UWABusiness School、2017年7月12日～14日
- 黄孝春「自然栽培の生産と流通」無肥料自然栽培勉強会、単独、東京ビックサイト会議棟、2018年1月28日～29日
- 黄孝春「自然栽培の流通について」自然栽培法がもたらす付加価値について、単独、弘前大学50周年記念会館、2018年1月20日
- 黄孝春「アメリカりんご産業と青森の対応」アメリカりんご産業現地調査報告会、単独、弘前大学50周年記念会館、2018年1月31日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 2018年8月28日－9月11日 アメリカミシガン州、ワシントン州でりんご産業調査
- 2019年2月13日－18日 ミャンマーヤンゴンでGAPワークショップに参加

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「資源価格スーパーサイクルと資源企業の適応行動」(研究分担者) 2016年度～2018年度

(7)共同研究、受託研究など

- 青森県西北地域県民局「西北におけるコメ生産のリスクの把握と評価方法の調査研究」(研究代表者) 2017年度
- 弘前大学戦略I研究プロジェクト「農産物輸出型国の現地調査等」

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- 地域未来創生塾 「りんごづくりだけで家族を養えるのか」2018年12月13日

## 李 永 俊

(1)現在の研究テーマ

- 人口減少対策に関する調査・研究
- 人口移動、流出防止策、UJIターン者の支援策などに関する調査・研究
- 災害復興、災害に伴う人口移動に関する調査・研究
- ボランティア労働供給に関する研究

(2)著書、論文、その他

[著書]

- Eric C. Jones, A.J. Faas, Young-Jun LEE, Hiroaki Sugiura, Ingrida Geciene 『Social Network Analysis of Disaster Response, Recovery, and Adaptation Edited』、共著、2016年10月、Elsevier

[論文]

- 李永俊、杉浦裕晃「地方回帰の決定要因とその促進策—青森県弘前市の事例から—」『フィナンシャルレビュー』第131号、pp.123-143、共著、2017年6月
- 栗原由紀子、李永俊、中路重之、村下公一、高橋一平、沢田かほり「社会経済的要員が心身の健康に与える影響—岩木健康増進プロジェクト健診およびWEB調査データによる地域差の検証」『経済統計学会』第113号、pp.17-28、共著、2017年9月
- 李永俊、オムチャンオク「地方回帰行動とその決定要因に関する日韓比較」『地域未来創生ジャーナル』第4号、pp.5-16、共著、2018年2月
- Young-Jun LEE, Hiroaki Sugiura 「Key Factors in Determining Internal Migration to Rural Areas and Its Promoting Measures ? A Case Study of Hirosaki Cit, Aomori Prefecture」『Public Policy Review』 pp.153-176、共著、2018年2月
- 李永俊、山口恵子「「地域志向科目」が地方大学生の就職地選択行動に及ぼす影響について—弘前市における大学生質問紙調査から—」『弘前大学院地域社会研究科年報』第14号、pp.3-14、共著、2018年3月
- 李永俊「小規模被災地における人口動態と復興政策—岩手県九戸郡野田村の事例から—」『NETT』No.101、pp.36-39、単著、2018年7月

[その他]

- 李永俊、日比野愛子、李秀眞『弘前市・つがる地域の大学生・企業の就業に関する意識調査報告書』弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター、2017年6月
- 李永俊、永田素彦、山口恵子、日比野愛子『野田村出身のみなさまの暮らしとお仕事に関するアンケート調査報告書』弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター、2018年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 李永俊「地方債卒者労働市場における需給のミスマッチ」平成29年度JSPS二国間交流事業共同研究セミナー 地方大学生の地元就職の決定要因とその促進策、単独、弘前市市民文化交流館ホール、2017年8月1日～2日
- 李永俊「東日本大震災からの復興に向けた協働的实践とアクションリサーチ (5)」日本グループダイナミクス学会第64回大会ワークショップ、協働、東京大学、2017年9月30日～10月1日
- 李永俊「A Role of the Local Community for the Solution to the Problem with Youth」About a Proposal on the Presentation on the Symposium of International Youth Policy 2017, 単独, Daegu Youth Center, October 28, 2017.
- 李永俊「野田村中学校同窓会調査結果報告」東日本大震災からの復興を考える—小規模被災地域における人口動態と復興対策—、単独、弘前市市民文化交流館ホール

[講演]

- 弘前市防災マイスター育成講座
- (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
  - 韓国、大邱市青年フォーラム参加、2017年10月27日～29日
  - アメリカ、デラウェア大学災害研究所セミナー&共同研究の打ち合わせ、2018年3月13日～19日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ほくとう総研地域活性化連携支援事業「小規模被災地域における人口動態と復興対策」(研究代表者) 2017年度
- 二国間交流事業セミナー「地方大学生の地元就職の決定要因とその促進策」(研究代表者) 2017年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 平成29年度JSPS二国間交流事業共同セミナー「地方大学生の地元就職の決定要因とその促進策」、弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター、2017年8月1～2日
- 地域未来創生塾@中央公民館「行政担当者に聞く弘前市の課題とその対策」、弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター、2017年10月11日
- 平成29年度地域未来創生センターフォーラム「東日本大震災からの復興を考える—小規模被災地域における人口動態と復興政策」弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター、2018年3月10日

## 福田進治

(1)現在の研究テーマ

- リカードの経済理論

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 福田進治「菱山泉『リカード』の再検討」『マルサス学会年報』第27巻、pp.1-29、単著、2018年3月

[報告]

- 福田進治、加藤徳子「消費者問題の課題と展望—弘前大学における消費者教育の実践—」『人文社会科学論叢』第4号、pp.211-228、共著、2018年2月

[その他]

- 福田進治「弘前大学における消費者問題講義の課題と展望」『2017年度弘前大学人文社会科学部消費者教育推進事業報告書』、pp.15-26、単著、2018年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 福田進治「菱山泉『リカード』の再検討」第27回マルサス学会大会、単独、釧路公立大学、2017年6月25日

[討論]

- 福田進治「八木尚志：スラフファ体系の解釈と拡張について」第35回リカードウ研究会、単独、立教大学、2017年7月29日

- Fukuda,S. 「Yuji Sato, Ricardo's Criticism of Adam Smith: A Defense」 International Ricardo Conference: The 200th Anniversary of David Ricardo's *Principles*. 単独、明治大学、2017年9月16日

[講演]

- 福田進治「[震災関連企画] 福島第一原発事故と福島県復興の現段階」第38回経済学史学会東北部会例会、単独、上越教育大学、2017年4月15日
- 福田進治「弘前大学における消費者問題講義の課題と展望」消費者フォーラム in HIROSAKI (弘前大学人文社会科学部・青森県消費者協会共催)、単独、弘前大学、2018年1月27日

(4)学外集中講義など

- 福田進治「消費者問題入門—消費者がつくる持続可能な社会とは?—」平成29年度弘前大学オープンキャンパス人文社会科学部模擬講義、弘前大学、2017年8月8日
- 福田進治「弘前大学における消費者問題講義の課題と展望」青森県消費者問題研究会例会、県民福祉プラザ、2018年2月24日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (A)「リカードウ・マルサス論争と古典派経済学の展開: その交錯と対抗および現代性の研究」(研究分担者) 2017年度~2021年度
- 基盤研究 (B)「経済理論の大衆化から経済政策の形成へ: テキストマイニングを応用した実証研究」(研究分担者) 2015年度~2019年度
- 基盤研究 (C)「日本のリカード研究の独自性と多様性に関する研究」(研究代表者) 2015年度~2019年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 消費者教育推進事業「消費者フォーラム in HIROSAKI」(弘前大学人文社会科学部・青森県消費者協会共催)、弘前大学、2018年1月27日

## 飯島 裕胤

(1)現在の研究テーマ

- 企業金融論 (とくに、企業買収の経済分析、企業の利益配分について)

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 飯島裕胤「保身的経営者と近視眼的買収者の下での動学的配当政策」『弘前大学経済研究』第40号、pp.46-54、単著、2017年12月
- 飯島裕胤「地域再生可能エネルギー事業における組織体選択の社会的最適性」『平成29年度 地域未来創生ジャーナル』pp.17-30、単著、2018年2月

## 山本 康裕

(1)現在の研究テーマ

- 金融政策全般
- 銀行貸出の変動が実体経済に与える影響
- 青森県経済のマクロ時系列分析

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 山本康裕「非伝統的金融政策と青森県のマクロ経済—構造VARモデルによる検証—」『人文社会科学論叢』第4号、pp.137-174、単著、2018年2月

## 小谷田 文彦

(1)現在の研究テーマ

- 企業行動の実証分析、地域活性化と産官学連携

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 小谷田文彦「地域政策の経済分析 公共政策に対する政策評価について」第42回弘前大学経済学会大会、単独、弘前大学、2017年10月27日

## 金 目 哲 郎

### (1)現在の研究テーマ

- 地方交付税、地方財源保障、財政民主主義

### (2)著書、論文、その他

#### [著書]

- 金目哲郎「地方財政の運営」、地方交付税」、篠原正博・大澤俊一・山下耕治編著『テキストブック 地方財政』、pp.41-58、pp.99-116、2017年6月、創成社

### (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 韓国、地方財政の研究打合せ、2017年7月15日～16日

### (8)学会・研究会・講演会などの開催

#### [それ以外のもの]

- 学部「地域課題研究A」受講学生による「学習成果発表会」、弘前市役所、2017年7月26日
- 財政学ゼミナール合同大会「全国7大学による研究成果発表会」、山形市、2017年9月1日～3日

## 桑波田 浩 之

### (1)現在の研究テーマ

- 企業のグローバル化や情報通信技術の利用が所得格差に与える影響
- 東日本大震災後の輸出減少の要因
- グローバル化が企業の報酬制度に与える影響

### (2)著書、論文、その他

#### [論文]

- 桑波田浩之「Does Performance Pay Increase Wage Inequality in Japan?」『The Empirical Economics Letters』、第16巻第12号、pp.1319-1328、単著、2017年12月
- 桑波田浩之「東日本大震災が日本の輸出に与えた影響—貿易の外延と内延の分解による分析」『日本経済研究』第76号、pp.44-67、単著、2018年3月

### (4)学外集中講義など

- 進路ガイダンス、東奥学園高等学校、2017年6月8日
- WING進学相談会・苫小牧会場、ホワイトパークサンシャイン、2017年7月14日
- ひろだいなビゲートキャラバンin函館、ホテル法華クラブ函館、2017年7月30日
- 進路ガイダンス、青森南高等学校、2017年12月7日

### (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 若手研究 (B)「企業のグローバル化と情報通信技術が所得格差に与える影響に関する計量実証的研究」(研究代表者) 2017年度～2018年度

### (8)学会・研究会・講演会などの開催

#### [それ以外のもの]

- アップルウェーブ紅玉カレッジ 講師 「所得格差は広がるのか？」

## 公共政策講座

## 平 野 潔

### (1)現在の研究テーマ

- 刑事過失論、裁判員制度、法教育

### (2)著書、論文、その他

#### [論文]

- 平野潔「過失不作為犯における主体の限定」『理論刑法学の探求』第10号、pp.35-65、単著、2017年7月
- 平野潔「過失の共同正犯」『人文社会科学論叢』第3号、pp.99-119、単著、2017年8月

#### [その他]

- 平野潔編『青森県を中心とした司法関連制度の現状—被害者支援・司法制度・裁判員制度—』pp.1-151、2018年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 宮崎秀一、平野潔、飯考行「模擬裁判員裁判「コミュニティ・コート」に見る法リテラシー」法と教育学会第8回学術大会、共同、一橋大学、2017年9月3日

[講演]

- 平野潔「裁判員制度の現状と課題」青森県社会保険労務士会平成29年度第2回研修会、単独、青森国際ホテル、2017年11月17日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 挑戦的萌芽研究「世代間対話を活用した『学社融合型』法教育プログラムの開発・試行・検証」(研究分担者)2015~2017年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 「裁判員裁判を地域に根づかせるために」、弘前大学、2017年12月2日

## 児山正史

(1)現在の研究テーマ

- 公共サービスの市場(準市場)としての福祉の選択制、地方自治体の行政評価

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 児山正史「準市場の優劣論と介護保険制度導入後の結果(1)」『人文社会科学論叢』第3号、pp.65-90、単著、2017年8月
- 児山正史「準市場の優劣論と介護保険制度導入後の結果(2)」『人文社会科学論叢』第4号、pp.175-199、単著、2018年2月

## 長谷河 亜希子

(1)現在の研究テーマ

- 独占禁止法、フランチャイズ・システム

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 緒方桂子、豊島明子、長谷河亜希子編著「第8章 経済活動と法」『日本の法』pp.122-139、編者、2017年4月、日本評論社

[論文]

- 長谷河亜希子「Small businessの保護とフランチャイズ規制—オーストラリアに焦点を当てて」金井貴嗣、土田和博、東條吉純編『経済法の現代的課題 舟田正之先生古稀祝賀』、pp.417-436、単著、2017年5月
- 長谷河亜希子「オーストラリア標準約款契約規制法とSmall Business フランチャイズ契約規制の一手法として」舟田正之、土田和博編著『独占禁止法とフェアコンミ—公正な経済を支える経済法秩序のあり方』、pp.327-347、単著、2017年7月
- 長谷河亜希子、土田和博「独占禁止法と農業協働組合」『協同組合研究誌にじ 2017臨時増刊『農協改革を協同組合から問うII』』pp.59-68、共著、2017年9月

[その他]

- 長谷河亜希子「フランチャイズ法制定へ 現状と課題(1)~(3)」『全国商工新聞』、pp.3、単著、2017年5月29、6月5日、6月12日
- 長谷河亜希子「独占禁止法1年の動き」日本経済法学会年報38号、pp.220-231、単著、2017年9月
- 長谷河亜希子「優越的地位の濫用による25条の損害賠償請求〔セブン—イレブン・ジャパン事件〕」金井貴嗣、泉水文雄、武田邦宣編『経済法判例・審決百選(第2版)』pp.230-231、単著、2017年10月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 長谷河亜希子「オーストラリアのフランチャイズ規制の概要」オーストラリアのフランチャイズ法制に学ぶ フランチャイズ規制法の在り方、単独、弁護士会館、2017年4月7日
- 長谷河亜希子「『日本の法』と法学教育—編者・著者の立場から」民主主義科学者協会法律部会2017年度学術総会ミニシンポジウム「法学教育と民主主義法学の現在—緒方桂子・豊島明子・長谷河亜希子編『日本の法』(日本評論社、2017年)を素材として」、単独、関西大学、2017年11月25日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C) 「優越的地位の濫用 (相対的優越的地位の濫用) 問題に関する民事訴訟の役割と問題点」(研究代表者) 2016年～2018年度
- 基盤研究 (A) 「経済法、比較・国際経済法とフェアコンミュー：自由、公正、責任の競争法秩序」(研究分担者) 2014年～2017年度

## 近 藤 史

(1)現在の研究テーマ

- 農村部を中心とした地域の持続的発展。生態環境の利用と保全。

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 掛谷誠著『人と自然の生態学』、共同編集、2017年12月、京都大学学術出版会

[その他]

- 杉山祐子、日比野愛子、曾我亨、近藤史、古村健太郎、平井太郎、諏訪淳一郎「地域の持続性に向けた共創手法の探求 (中間報告)」『地域未来創生センタージャーナル』第4号、共著、2018年2月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 近藤史「プリコラージュが拓くアフリカ農村の新たな人間・環境系」旅するアフリカ2017 (上智大学)、単独、上智大学、2017年6月2日
- 近藤史「東通村×学生 ジオ観光振興に向けた試み」生態人類学会第22回研究大会、単独、ユインチホテル南城、2018年3月24日～25日

[講演]

- 近藤史「地域の人びとが楽しく暮らせる社会の仕組みづくり」東通村「第1回『観光開発事業プロジェクト』実行委員会」単独、東通村商工会会議室、2017年7月11日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (A) 「アフリカ農村における技術の内部化プロセスの解明と循環型資源利用モデルの構築」(研究分担者) 2015年度～2019年度

(7)共同研究、受託研究など

- 福岡教育大学「タンザニアにおける小型水力発電と住民交流を基盤とした環境保全に関する実践的研究」(研究分担者) 2015年度～2017年度
- 青森県「地域づくりインターン/ファシリテータ研修事業」(研究分担者) 2016年度～2017年度
- 青森県「農村漁村「地域経営」の推進に係る現地研究」(研究分担者) 2017年度

## 吉 村 顕 真

(1)現在の研究テーマ

- 日米不法行為法の研究
- 日米救済法の研究
- 相続法の研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 吉村顕真「懲罰的損害賠償の現代的展開」『私法』第79号、pp.151-157、単著、2017年4月

(3)研究発表、講演

[講演]

- 「民法では実親子関係をどうやって決めているの?—特に父子関係に着目して—」青森南高校 模擬授業 (2017年10月)
- 「成年後見制度の現況と課題」中央公民館 (2018年2月)

(4)学外集中講義など

- 青森中央学院大学・経営法学部 (親族相続法)
- 黒石高校看護科 (関連法規)

## 白石 壮一郎

### (1)現在の研究テーマ

- 移住・移動者とホーム（家郷意識形成）、場所と共同性／公共性、地域社会の再想像、フィールドワーク（社会調査）論など

### (2)著書、論文、その他

#### [著書]

- 白石壮一郎・椎野若菜 編『社会問題と出会う』、共編著、古今書院、2017年6月
- 白石壮一郎「社会問題との出会う方：アクティブ・ラーニングへの本書の利用」、単著、白石・椎野編上掲書、pp.193-205
- SHIINO Wakana, SHIRAIISHI Soichiro and MPYANGU M. Christine Eds. Diversification and Reorganization of 'Family' in Uganda and Kenya: A Cross-cultural Analysis. 共編著、Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies; March 2018.
- Soichiro SHIRAIISHI "Public Education, Intra-Familial Relationships and Making Aspiration for Social Mobility: A Case of a Migrant in Eastern Uganda-Western Kenya Borderlands in 1960s", 単著, SHIINO, SHIRAIISHI and MPYANGU eds. 上掲書, pp.163-169

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- Soichiro SHIRAIISHI "Migration, Education and Family Ties/Gaps: Fragments of a family history in the Uganda-Kenya borderlands, 1960s-1990s", 単 独, Seminar of JSPS Bi-lateral Research Programme, Faculty of Arts, Makerere University, Uganda, 2017年9月

#### [講演]

- トークセッション「教室で社会問題と出会う」パネリスト（五十嵐和也（都立保谷高校教員）ほか大学教員2名）、『フィールドで／教室で社会問題と出会う』、FENICS主催、於 東中野ポレポレ座、2017年12月

### (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ウガンダ共和国（2017年8月13日～9月10日）学術調査

### (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「東アフリカにおける高卒若年滞留層のライフコースと地方定着化／再流動化モデルの構築」（代表：白石壮一郎）、2015～2018年度
- 二国間交流事業（共同研究、ウガンダ共和国）「ウガンダにおける〈家族〉の多様化と再編力についての研究：格差に対する潜在力分析」（日本学術振興会国際交流事業；代表：椎野若菜）、2016～2018年度

### (7)共同研究、受託研究など

- 青森県「持続可能な農山漁村の確立を目指す〈地域経営〉」事業（地域社会研究科受託、平井太郎統括、杉山祐子・近藤史・白石により下北地域・三八地域等担当）県庁構造政策課、2016～2017年度
- 青森県「学生発 未来を変える挑戦」事業〈ヤング三沢〉班（羽淵一代と共同で指導担当）県庁企画調整課、2017年度

## 成田 史子

### (1)現在の研究テーマ

- 労働法、企業組織再編

### (2)著書、論文、その他

#### [著書]

- 野田進、矢野昌浩、奥田香子『講座労働法の再生 第2巻 労働契約の理論』共著、2017年6月、日本評論社

#### [論文]

- 成田史子、荒木尚志「ドイツにおける企業組織再編時の労働条件変更・解雇規制の検討」『格差社会と労働法の役割』、pp.149-163、共著、2017年6月

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 「生コン製販会社経営者ら（会社分割）事件」東京大学労働判例研究会、単独、東京大学、2017年4月28日
- 「生コン製販会社経営者ら（会社分割）事件大阪高判平成27・12・11労判1135号29頁判例評釈」東北大学社会法研究会、単独、東北大学、2017年7月22日
- 「働き方の多様化―人材と競争政策に関する検討会」報告書の検討」労働問題リサーチセンター研究会、2018年3月9日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 若手研究 (B)「企業組織再編手続における労働者保護規範の解釈論・立法論的提案」(研究代表者) 2016年～2018年度

## 河合正雄

(1)現在の研究テーマ

- 受刑者の権利

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 河合正雄「絶対的無期刑は非人道的な刑罰か—ヨーロッパ人権条約3条の視点から」工藤達朗、西原博史、鈴木秀美、小山剛、毛利透、三宅雄彦、斎藤一久編集『戸波江二先生古稀記念 憲法学の創造的展開 下巻』pp.223-240、共著、2017年12月、信山社

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Masao Kawai「Prisoners' Rights in Japan and the Reference to International Human Rights Law」第5回日英比較憲法セミナー、単独、キャンパスプラザ京都、2017年9月2日～3日

(4)学外集中講義など

- 2017年度夏季集中講義「教育と憲法（日本国憲法）」電気通信大学、2017年8月25日、8月28日、9月8日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 若手研究 (B)「受刑者の社会復帰に資する憲法学解釈の刷新—国際人権法に基づく司法の関与の検討」(研究代表者) 2016～2018年度
- 基盤研究 (B)「イギリス憲法の「現代化」と比較憲法モデル構築のための総合的研究」(研究分担者) 2015～2017年度